3．質問調査結果（児童生徒、学校）

※掲載している割合を示すグラフにおいて、「その他、無回答」の回答の割合が小さい場合は、グラフ上に数値を表示していないため、合計しても100%に満たない場合がある。
※質問調査同士のクロス集計については、有効回答のみで集計している。
※中学校英語はCBTで実施し、英語4技能のIRTスコアにより結果を表示している。
※□内の数値は相関係数

R8

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

ポイント

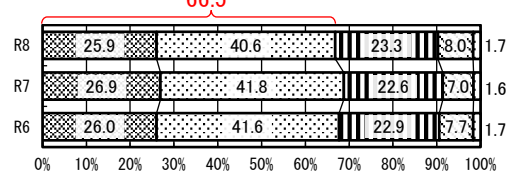
- 【p.49】約７～８割の児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている。また、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
- 【p.50】児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答と「好奇心・問題解決力・粘り強さ・挑戦心」に関する回答の間には相関が見られる。

授業で工夫して発表していた

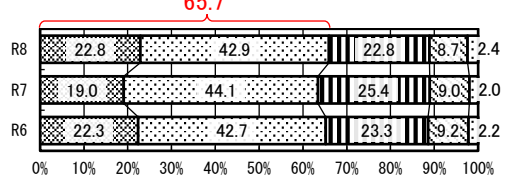
児童〔38〕
生徒〔38〕
５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

発表していた　どちらかといえば、発表していた　どちらかといえば、発表していなかった
発表していなかった　考えを発表する機会はなかった

小学校

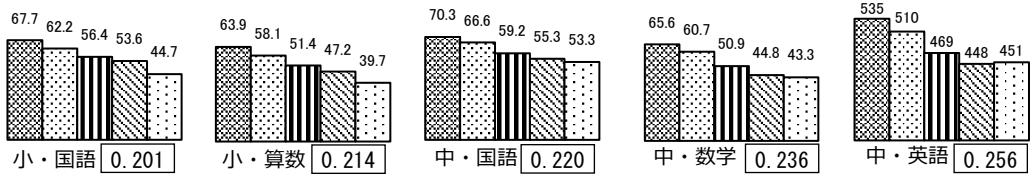


中学校



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア　※ 相関係数は「考えを発表する機会はなかった」の回答を除外して算出

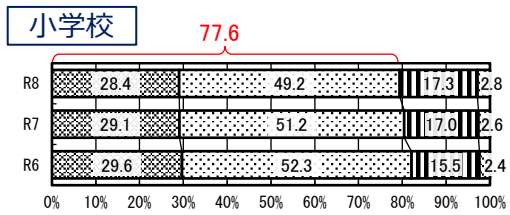


課題の解決に向けて自分から取り組んだ

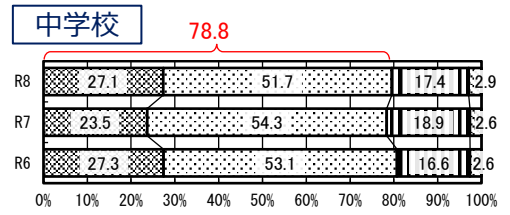
児童〔39〕
生徒〔39〕
５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

小学校

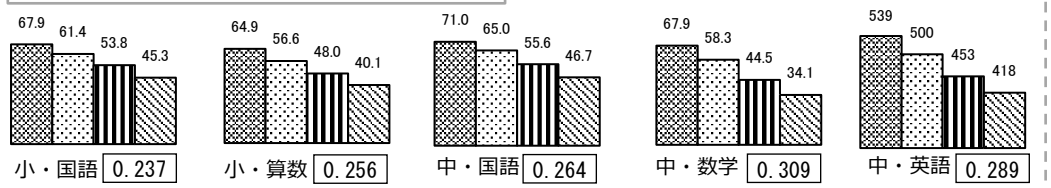


中学校



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

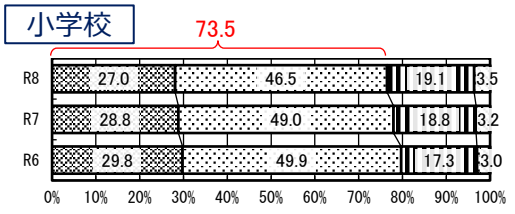


学んだことを生かしながら考えをまとめていた

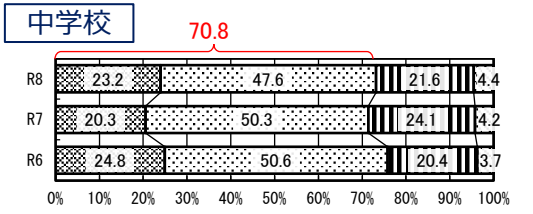
児童〔40〕
生徒〔40〕
５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

小学校

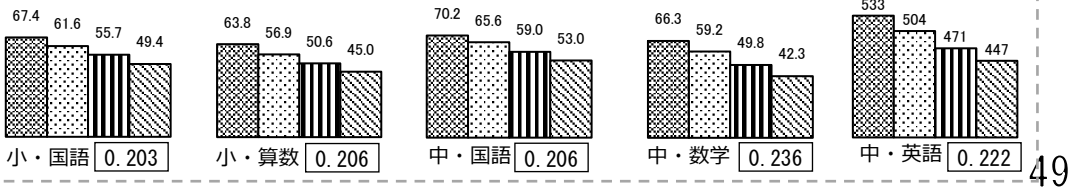


中学校



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



「主体的・対話的で深い学び」×「好奇心・問題解決力・粘り強さ・挑戦心」

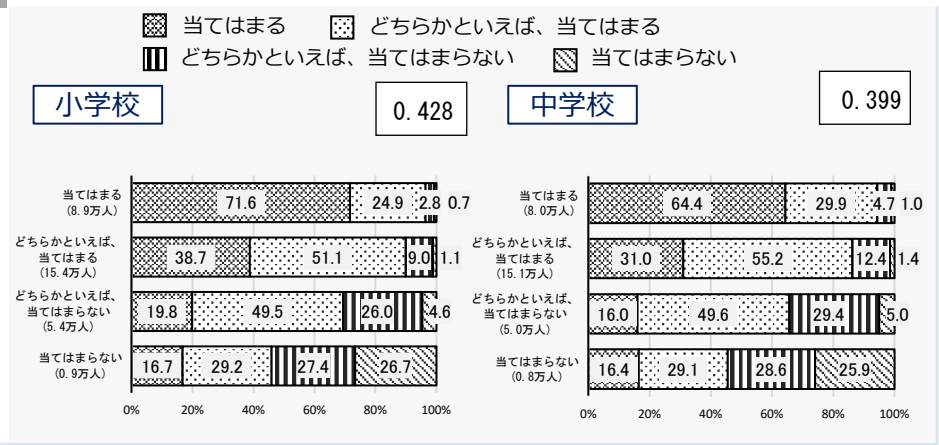
○　児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答と「好奇心・問題解決力・粘り強さ・挑戦心」に関する回答の間には相関が見られる。児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」が、「好奇心・問題解決力・粘り強さ・挑戦心」に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［課題の解決に向けて自分から取り組んだ］×［新しいことを学ぶのは好きだ］

新しいことを学ぶのは好きですか。〔19－2〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔39〕

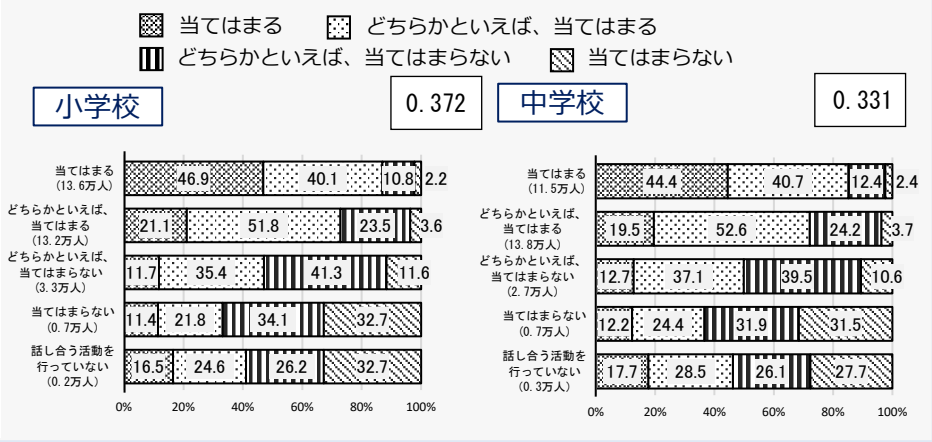


クロス集計（児童生徒）

［話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした］×［問題の解決策を見つけることは好きだ］

問題の解決策を見つけることは好きですか。〔19-3〕

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔42〕



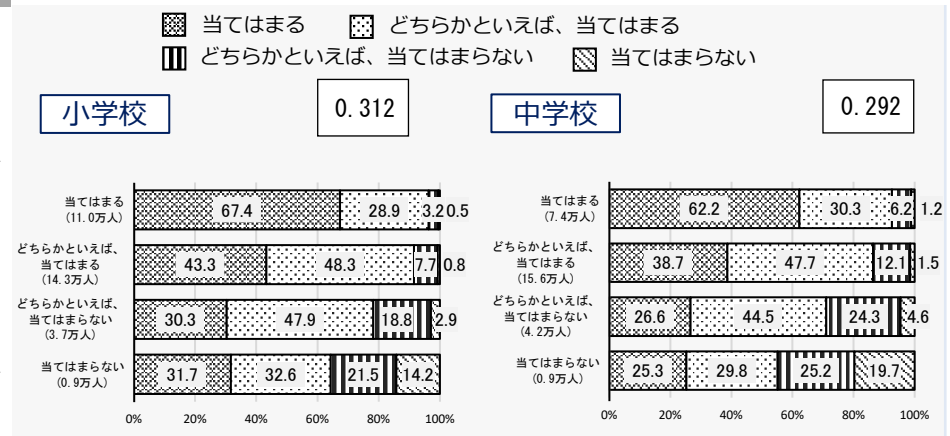
※　相関係数は、児童生徒質問42における「話し合う活動を行っていない」の回答を除外して算出

クロス集計（児童生徒）

［個別最適な学び］×［粘り強さ］

課題は終えるまでやり通していますか。〔18-1〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。〔41〕

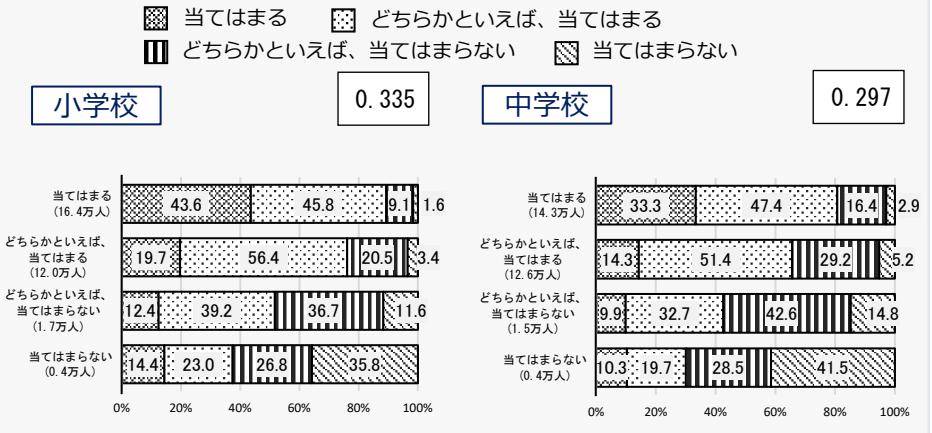


クロス集計（児童生徒）

［協働的な学び］×［挑戦心］

課題が難しくなると、さらに努力していますか。〔18-2〕

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。〔46〕



② 学びの主体的な調整

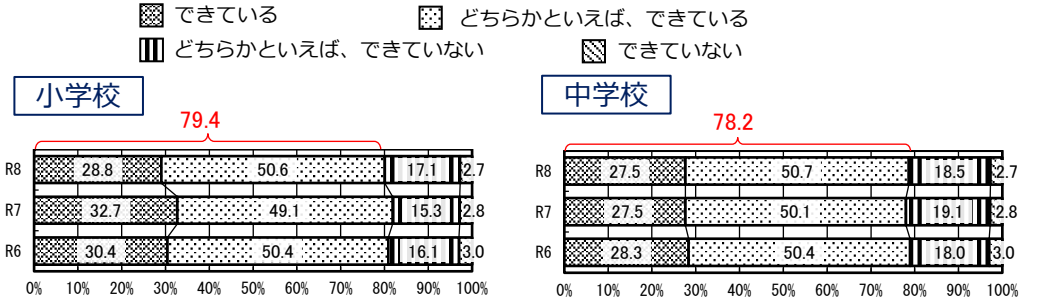
「学びの主体的な調整」とは自分の思考や行動を客観的に把握し認識（メタ認知）しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり、次の思考や行動につなげたりする力のこと。

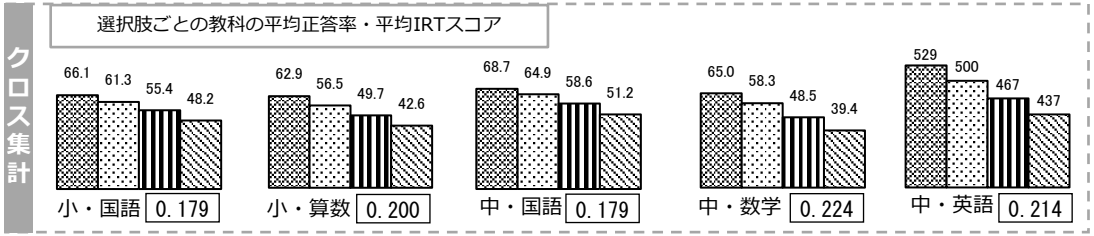
ポイント

● 【pp.51-52】約６～８割の児童生徒が「学びの主体的な調整」ができていると考えている。また、「学びの主体的な調整」ができていると考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

自分で学び方を考え、工夫

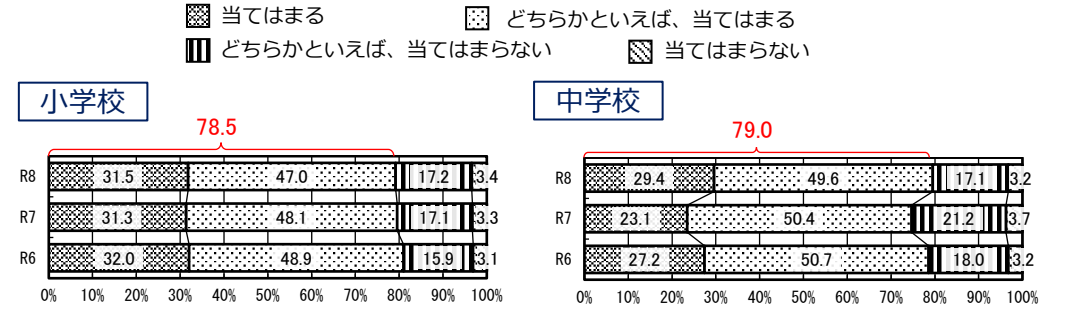
児童〔22〕
生徒〔22〕
分からないことやくわ〔詳〕しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

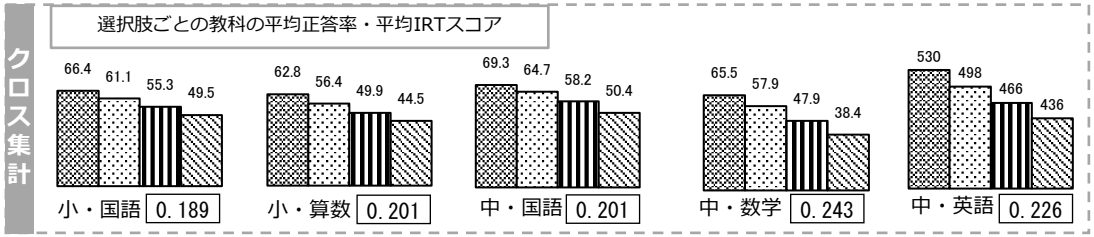




よく分からなかった点を見直し次の学習につなげる

児童〔43〕
生徒〔43〕
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



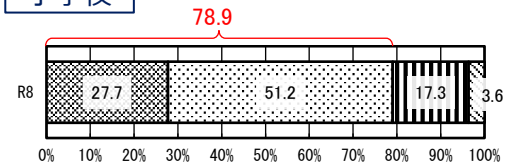


学習計画の立て方への理解

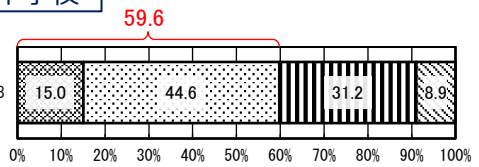
児童〔32-1〕
生徒〔32-1〕
学習の計画の立て方や学び方が分かる。【新規】

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

小学校

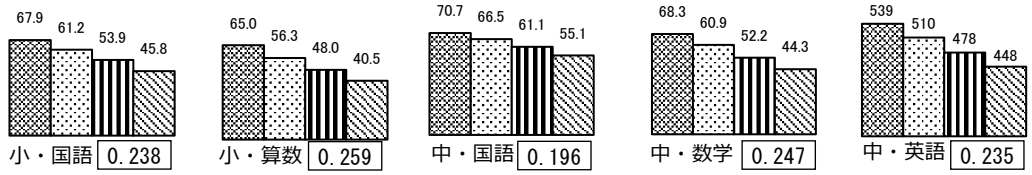


中学校



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

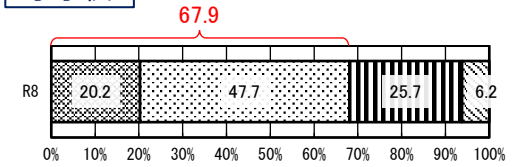


学習の振り返り

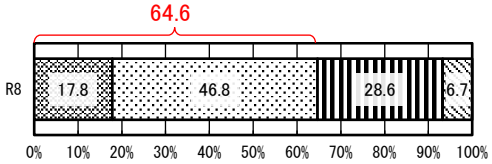
児童〔32-2〕
生徒〔32-2〕
自分が理解したか、何が分かっていないかを確認するために、学習したことを振り返っている。【新規】

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

小学校

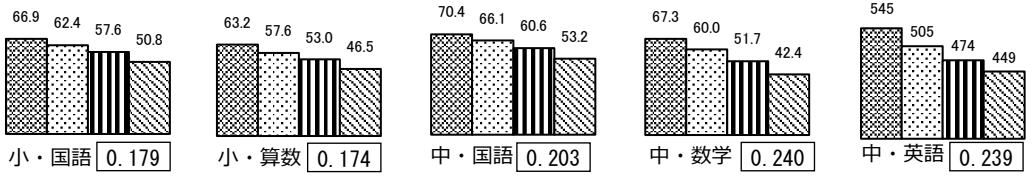


中学校



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

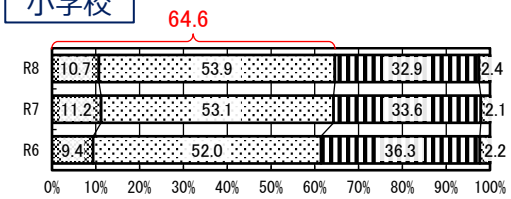


【学校質問】学習計画を立てる活動の実施状況

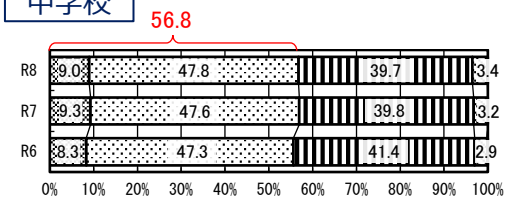
学校質問
小学校〔30〕
中学校〔30〕
調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、児童〔生徒〕が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている。

そう思う　どちらかといえば、そう思う
どちらかといえば、そう思わない　そう思わない

小学校



中学校

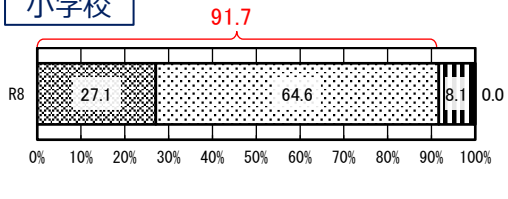


【学校質問】既習事項を振り返り、知識を総合的に関連付ける活動の実施状況

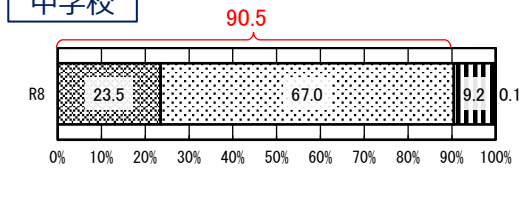
学校質問
小学校〔35〕
中学校〔35〕
調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、関連する既習事項を振り返り、知識を総合的に関連付ける学習活動を行っている。【新規】

よく行った　どちらかといえば、行った
あまり行わなかった　全く行わなかった

小学校



中学校



「特別支援教育の視点に立った学級全体での指導の工夫」×「主体的・対話的で深い学び」

○　学校の「特別支援教育の視点に立った学級における指導の工夫」に関する回答と「主体的・対話的で深い学び」や「協働的な学び」に関する回答の間には、一定の関係が見られる。

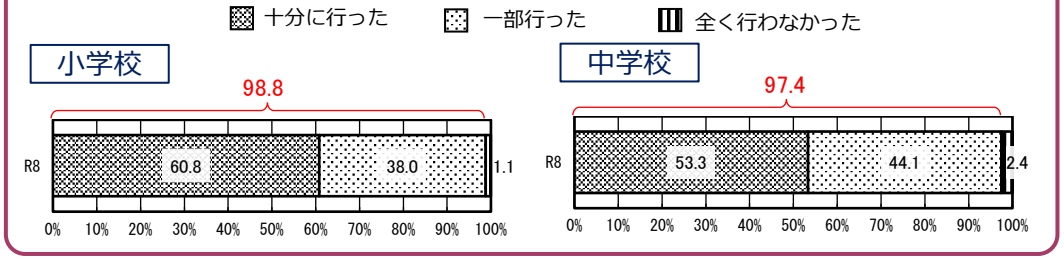
・教師が障害のある児童生徒も含めた多様な児童生徒を念頭に学級全体での指導の工夫を行うことが、児童生徒が周囲の考えを尊重しながら、協働的に学ぶ環境づくりに寄与していたり、

・障害のある児童生徒に対して個に応じた指導内容・方法の工夫を行うことが、児童生徒が自ら計画的・主体的に学ぶ意欲を担保したり、

といった影響を与えている可能性がある。

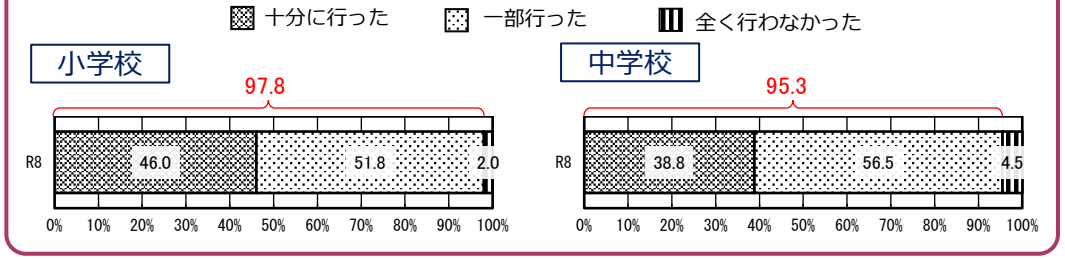
学校質問
小学校〔72〕
中学校〔80〕

授業の中で、発達障害を含む障害のある児童〔生徒〕も含めた、多様な児童〔生徒〕が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行いましたか。【新規】



学校質問
小学校〔73〕
中学校〔81〕

授業の中で、発達障害を含む障害のある児童〔生徒〕に対する個に応じた指導内容や指導方法の工夫として、当該児童〔生徒〕が学習活動を行う場合に生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を講じましたか。【新規】

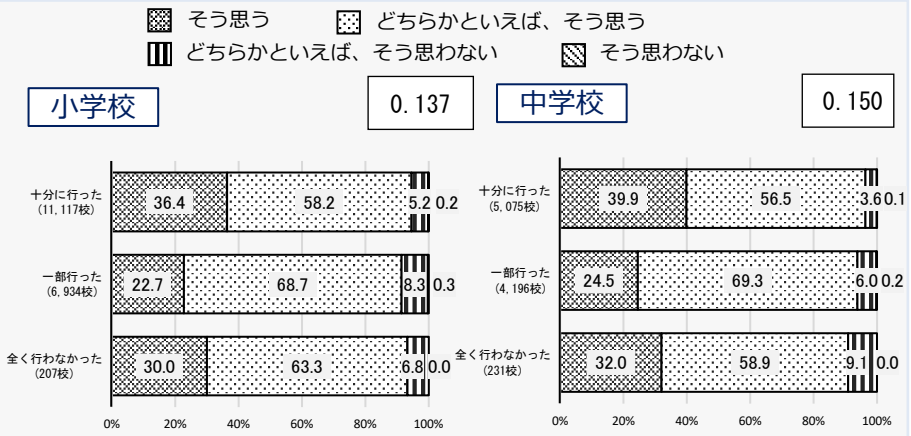


クロス集計（学校質問）

［多様な児童〔生徒〕に対する学級全体での指導の工夫］×［周りの人の考えを大切にし、協力しながら課題を解決］

調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか。〔29〕

授業の中で、発達障害を含む障害のある児童〔生徒〕も含めた、多様な児童〔生徒〕が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行いましたか。〔72（80）〕

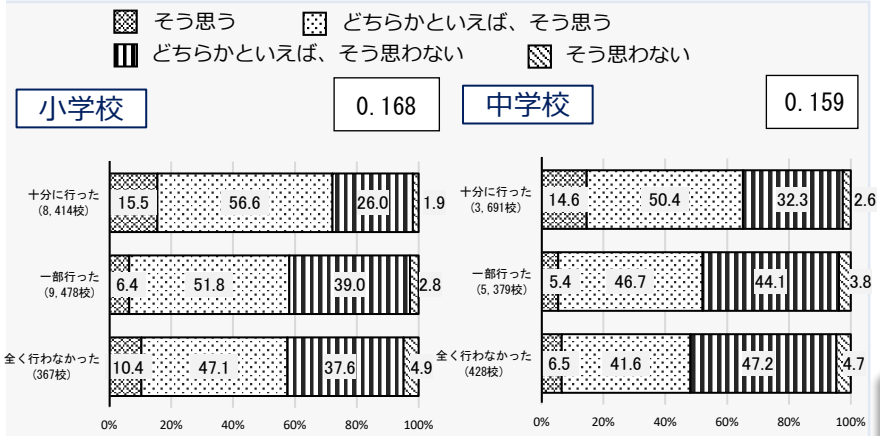


クロス集計（学校質問）

［多様な児童〔生徒〕に対する学級全体での指導の工夫］×［児童生徒の主体的な学びの状況］

調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか。〔30〕

授業の中で、発達障害を含む障害のある児童〔生徒〕に対する個に応じた指導内容や指導方法の工夫として、当該児童〔生徒〕が学習活動を行う場合に生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を講じましたか。〔73（81）〕

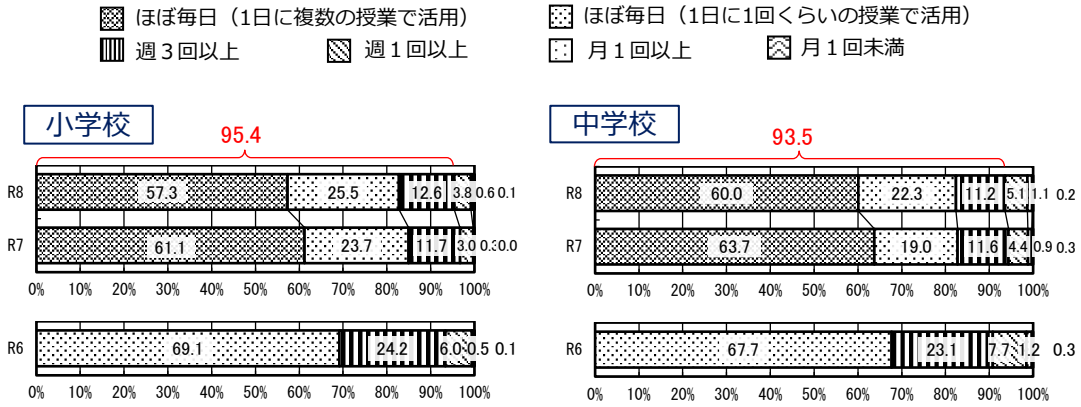


(2) ICTを活用した学習状況　① ICTの活用状況等

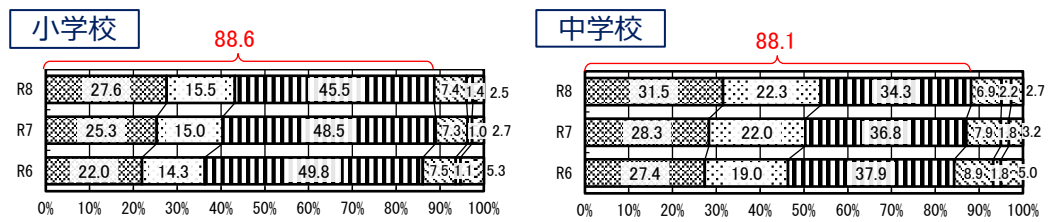
ポイント

- 【p.54】ICT機器を「ほぼ毎日」「週３回以上」活用していると回答した学校は、小学校95.4%、中学校93.5%でほぼ横ばいであり、活用の定着が見られる。また、ICT機器を家庭で利用できるようにしていると回答した学校は増加傾向であり、半数以上の児童生徒が週１回以上活用している。
- 【p.55】ICT機器が、不登校児童生徒、特別な支援を要する児童生徒、外国人児童生徒等に対する学習活動等の支援や、児童生徒の心身の状況の把握等にも活用されている。

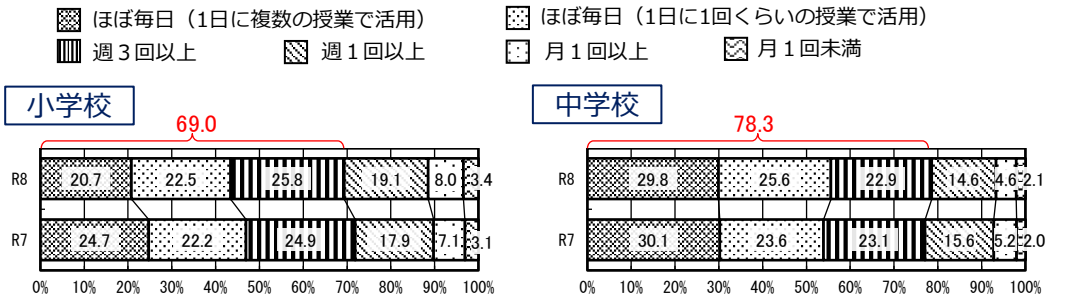
学校質問
小学校〔60〕
中学校〔68〕
あなたの学校では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。



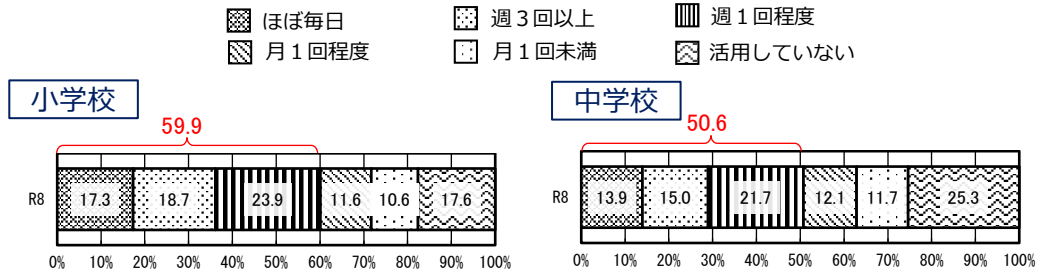
学校質問
小学校〔67〕
中学校〔75〕
あなたの学校では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。



児童〔35〕
生徒〔35〕
５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、PCやタブレット等のICT機器を、どの程度使用しましたか。



児童〔37-11〕
生徒〔37-11〕
５年生まで〔１、２年生のとき〕の学習の中で、家庭学習で PCやタブレット等のICT機器を、どの程度使用しましたか。【新規】



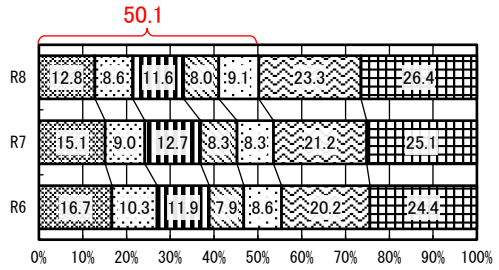
学校質問
小学校〔70〕
中学校〔78〕

児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。

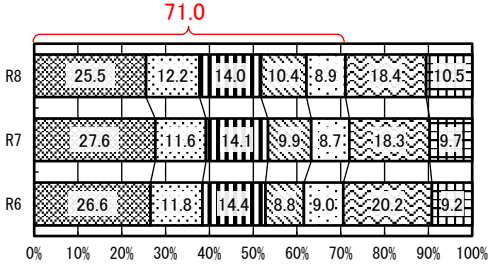
ほぼ毎日　週３回以上　週１回以上　月１回以上　月１回未満　活用していない　該当する児童〔生徒〕がいない

(1) 不登校児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援（授業配信を含む）

小学校

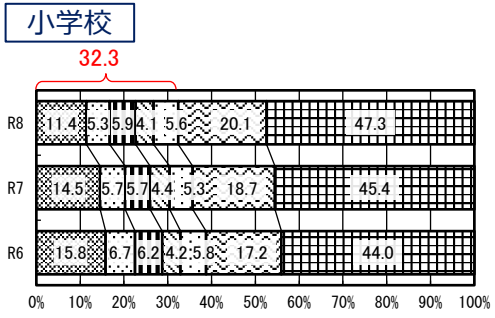


中学校

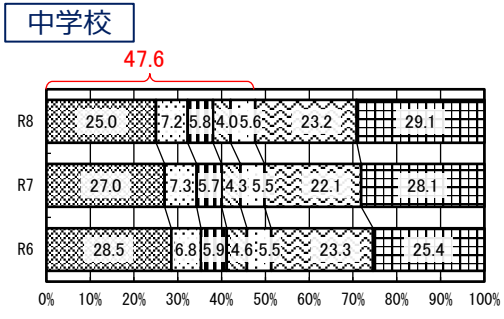


(2) 希望する不登校児童〔生徒〕に対する授業配信

小学校

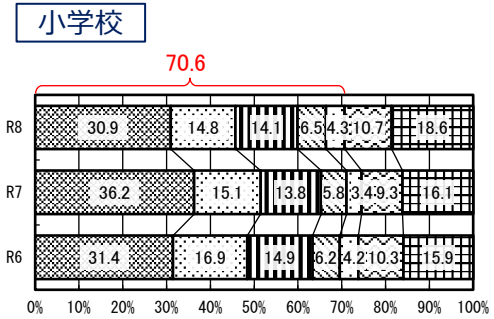


中学校

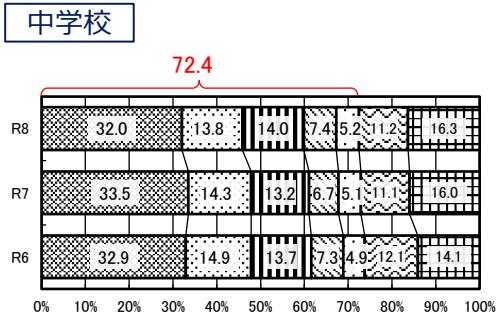


(3) 特別な支援を要する児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援

小学校

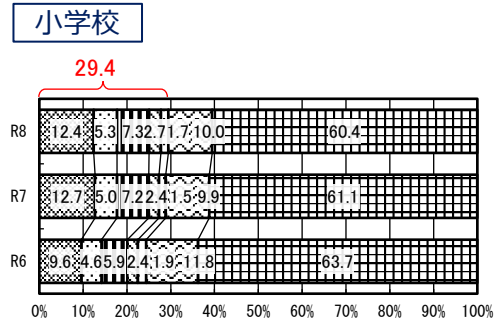


中学校

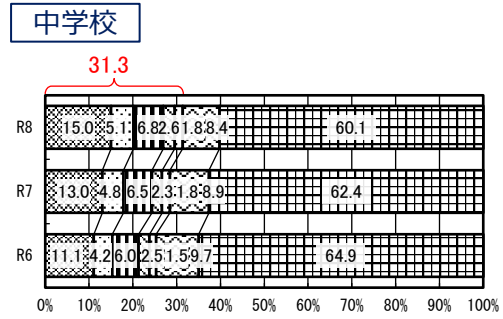


(4) 外国人児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援

小学校

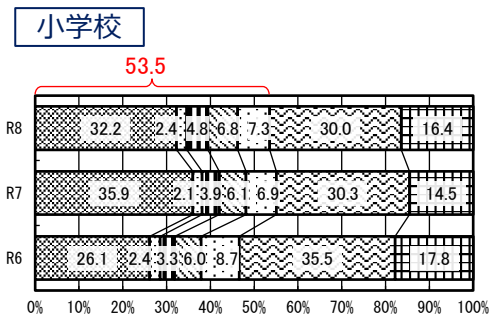


中学校

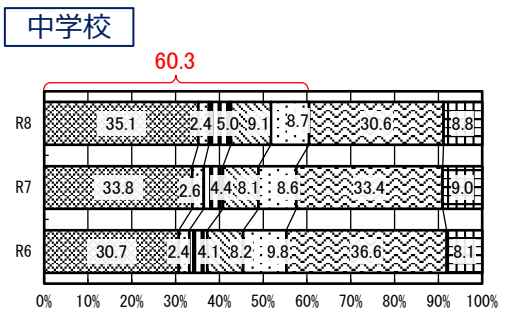


(5) 児童〔生徒〕の心身の状況の把握

小学校

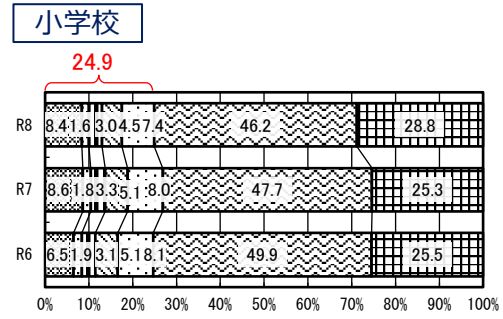


中学校

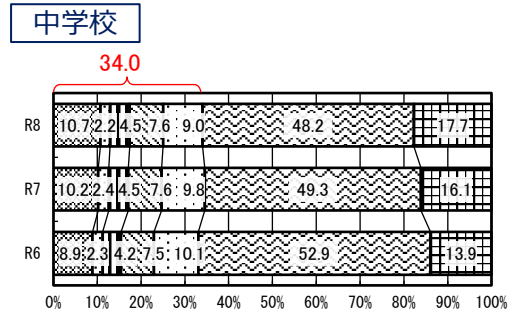


(6) 児童〔生徒〕に対するオンラインを活用した相談・支援

小学校



中学校



ICT活用による効果　～ICT活用の効力感～

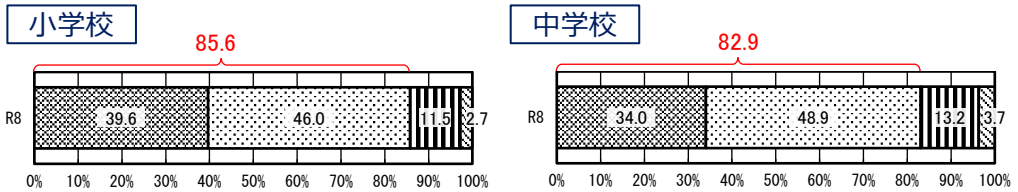
○　約９割の児童生徒が、ICT機器については「分からないことがあった時に、すぐに調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」などと考えている。

○　ICT機器が日常の学習に定着し、効果的な活用ができている様子が見られる。

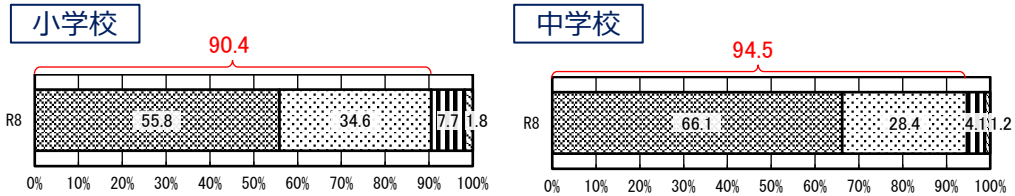
児童〔37〕
生徒〔37〕

５年生まで〔１、２年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

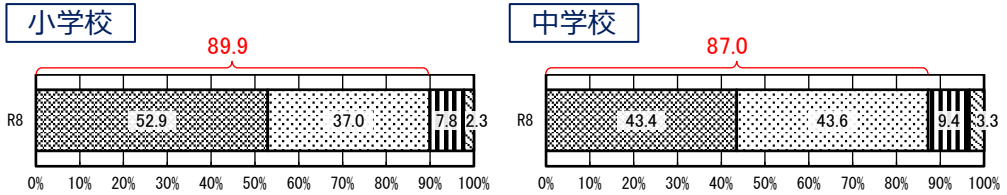
(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。



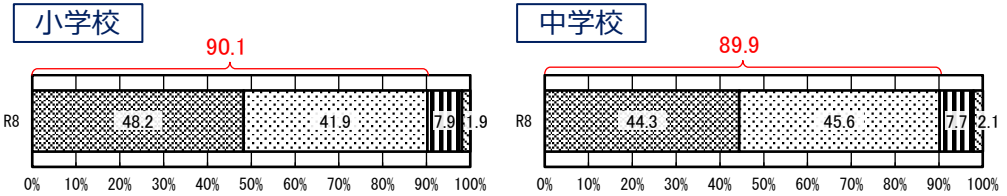
(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。



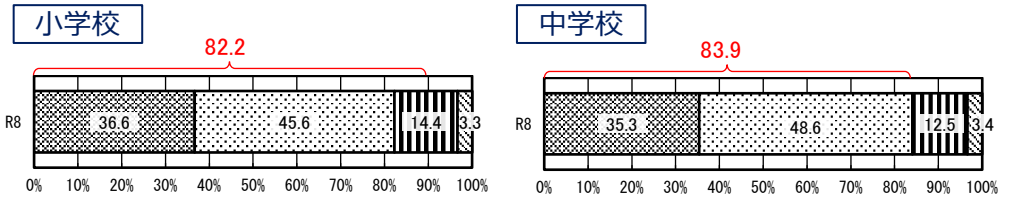
(3) 楽しみながら学習を進めることができる。



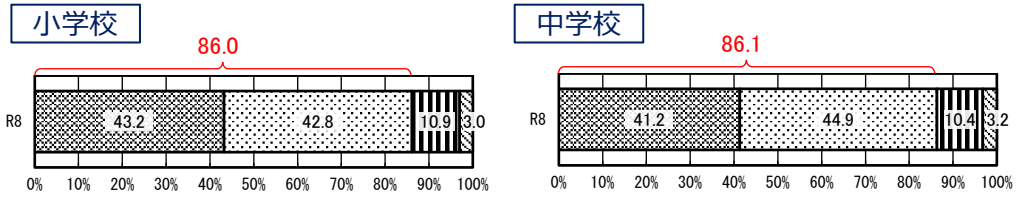
(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。



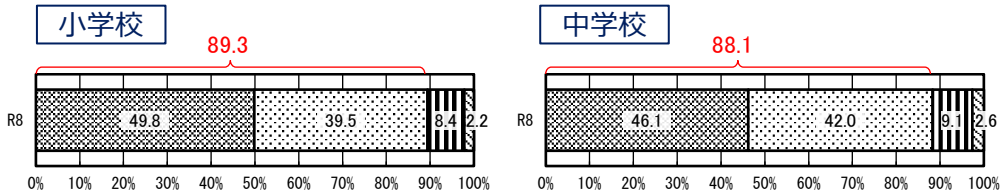
(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。



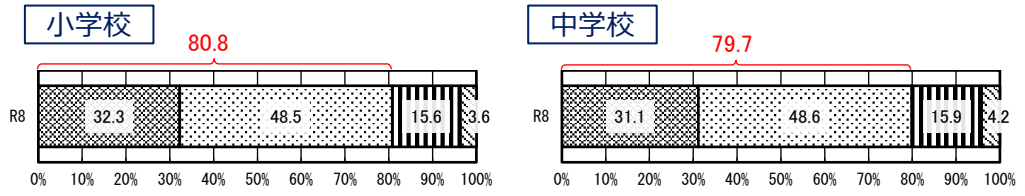
(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。



(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる。



(8) 次の学習に取り組む際に、自分の学習の状況や成果を振り返ることができる。



ICT活用による効果　～ICTを活用する自信×学びへの意欲・工夫～

○　ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考えて工夫したり、課題の解決に向けて自分で考えて取り組んだりしていると考えている傾向が見られる。（個別最適な学び）

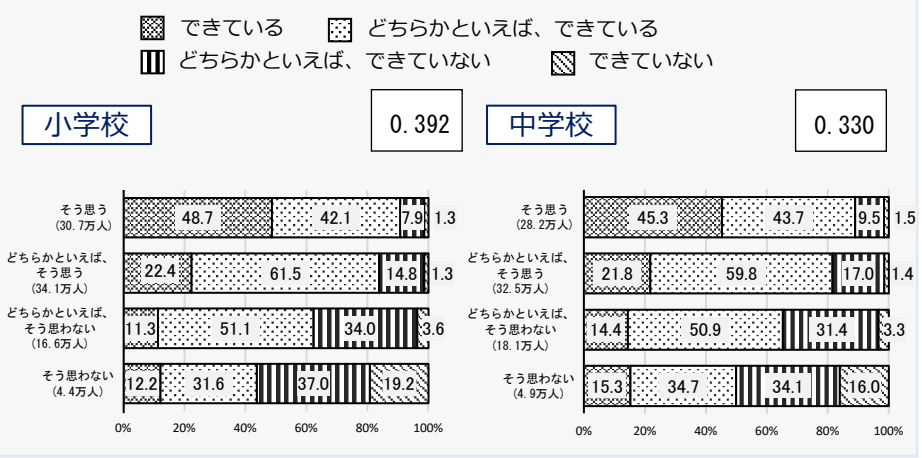
○　ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考えに気づいたり、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしていると考えている傾向が見られる。（協働的な学び）

クロス集計（児童生徒）

［ICTで情報を整理できる］×［自分で学び方を考え、工夫する］

分からないことやくわ〔詳〕しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔22〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。〔36－3〕

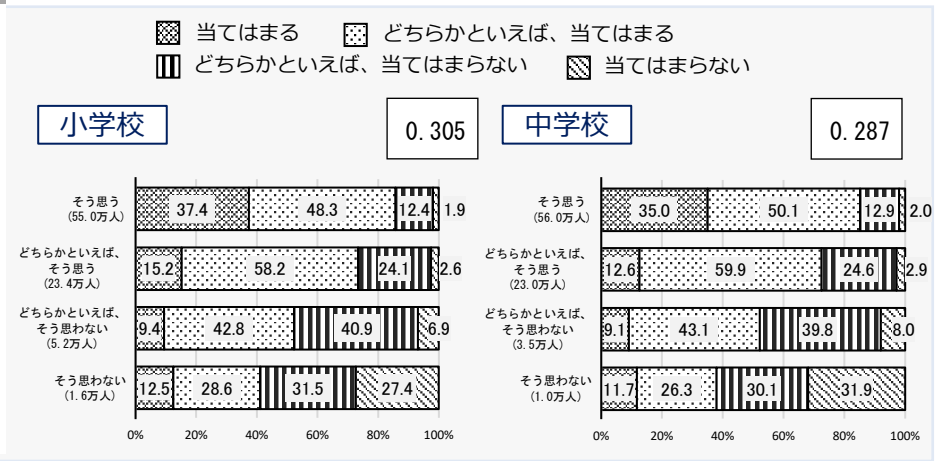


クロス集計（児童生徒）

［インターネットで情報収集できる］×［課題の解決に向けて自分で考えて取り組む］

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔39〕

あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。〔36－2〕

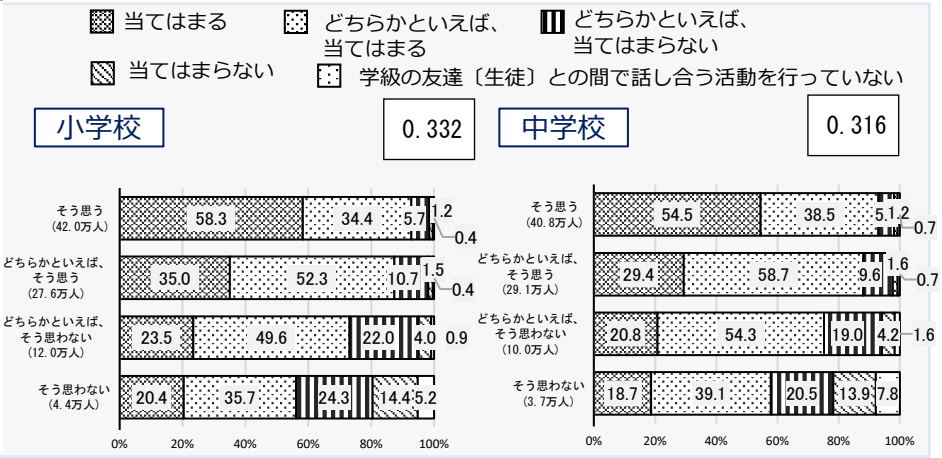


クロス集計（児童生徒）

［プレゼンを作成することができる］×［話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした］

学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔42〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。〔36－4〕



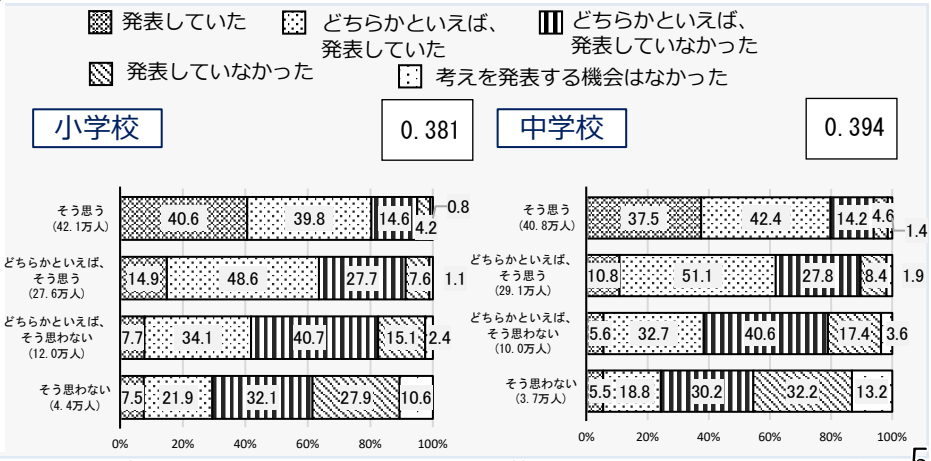
※　相関係数は、児童生徒質問42における「話し合う活動を行っていない」の回答を除外して算出

クロス集計（児童生徒）

［プレゼンを作成することができる］×［自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表した］

５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。〔38〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。〔36－4〕



※　相関係数は、児童生徒質問38における「考えを発表する機会はなかった」の回答を除外して算出

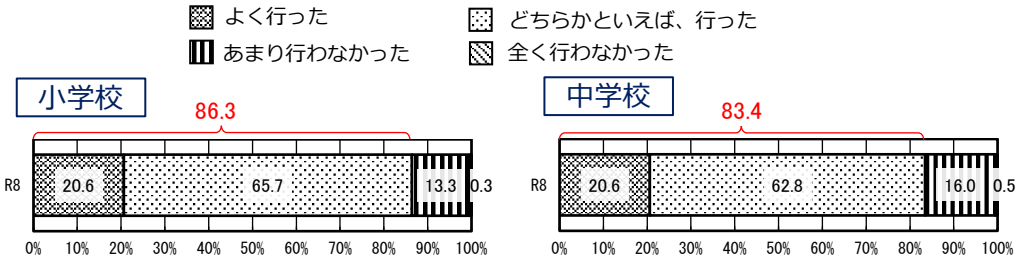
ICT活用による効果　～ICT機器を活用した見方・考え方を働かせる指導～

○　ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行っていると考えている学校は、小学校86.3%、中学校83.4%。

○　そのような学校ほど、児童生徒の個別最適な学び・協働的な学びの実現のための学習活動を取り入れたり身につけたことを課題解決に生かすことができる機会を設けたりしていると考えている傾向が見られる。

学校質問
小学校〔68〕
中学校〔76〕

ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行いましたか。【新規】

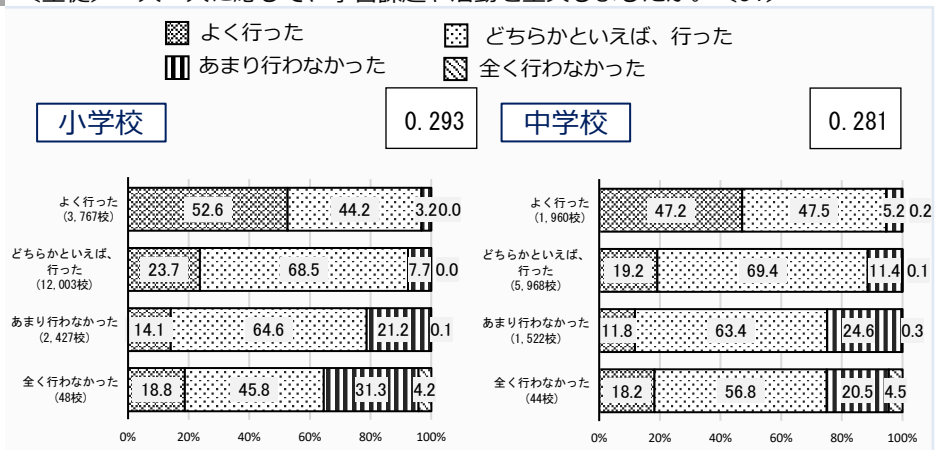


クロス集計（学校質問）

［ICTを活用した見方・考え方を働かせる学習指導］×［一人一人に応じて課題を工夫］

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。〔31〕

ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行いましたか。〔68・76〕

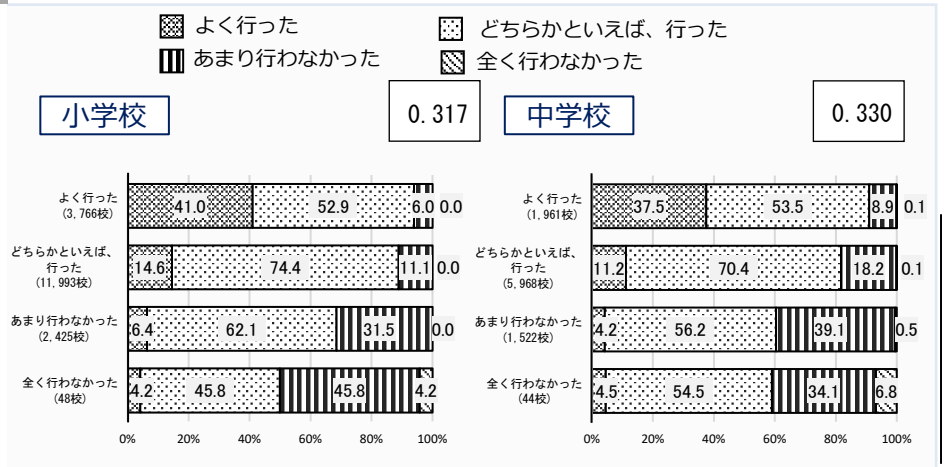


クロス集計（学校質問）

［ICTを活用した見方・考え方を働かせる学習指導］×［身につけたことを課題解決に生かす］

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。〔36〕

ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行いましたか。〔68・76〕

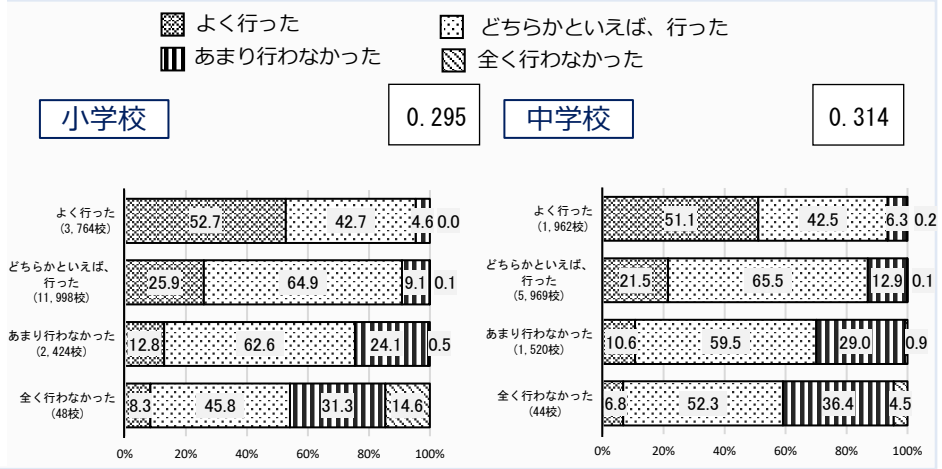


クロス集計（学校質問）

［ICTを活用した見方・考え方を働かせる学習指導］×［解決に向けて話し合い、まとめ、表現する］

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。〔33〕

ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行いましたか。〔68・76〕

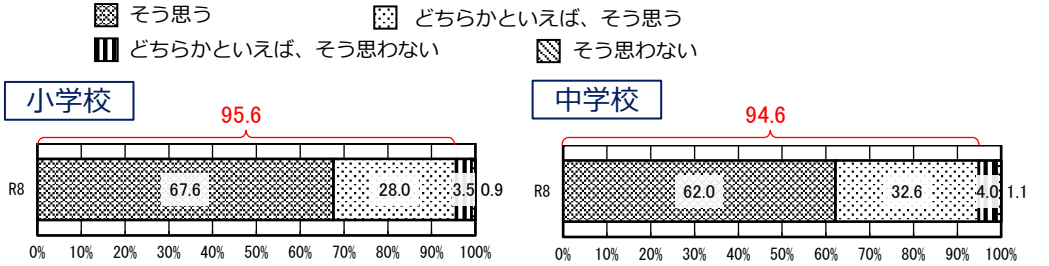


② ICT機器やインターネット活用に関するルールやマナー

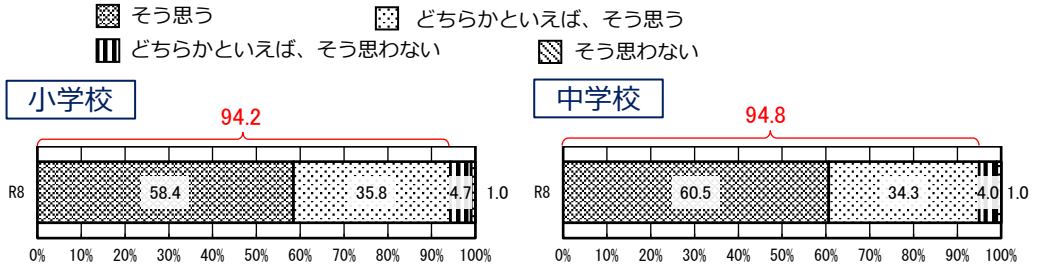
ポイント

- 【p.59】ほぼ全ての児童生徒が、ICT機器やインターネットの利用に当たってのルールやマナーを学校で学んでおり、ルールやマナーを守って活用できると回答している。そのような児童生徒ほど、いじめがどんな理由があってもいけないことだと思っている傾向が見られる。

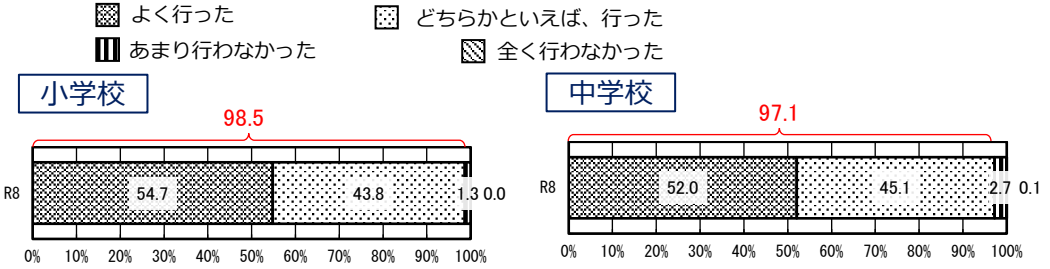
児童〔37-9〕
生徒〔37-9〕
ICT機器やインターネットの利用に当たってのルールやマナーに関して学校で教えてもらっている。【新規】



児童〔37-10〕
生徒〔37-10〕
ICT機器やインターネットについて、ルールやマナーを守って活用することができている。【新規】



学校質問
小学校〔69〕
中学校〔77〕
ICT機器やインターネットの利活用について、目的や場面に応じた適切な使い方や、利活用にあたってのルールやマナー（長時間利用防止や情報の取扱いも含む）に関する指導を行いましたか。【新規】

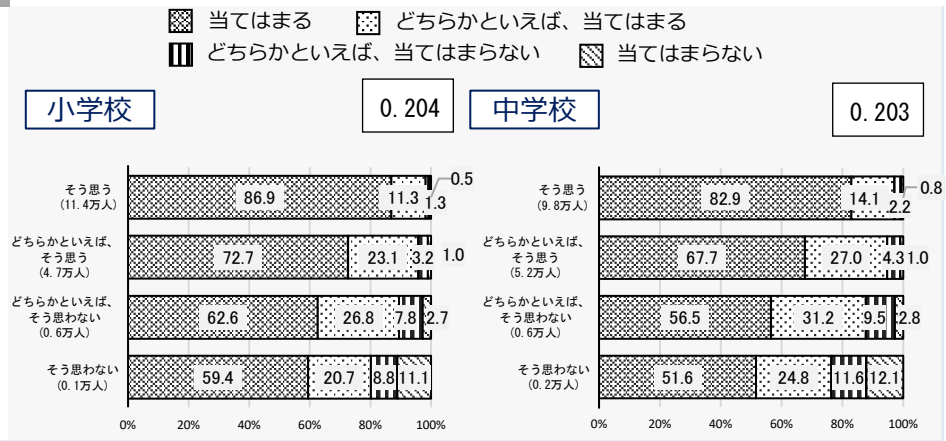


クロス集計（児童生徒）

ICT機器やインターネットの利用に当たってのルールやマナーに関して学校で教えてもらっている。〔37-9〕

［ICTのルールやマナーを学校で教えてもらっている］×［いじめについての規範意識］

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。〔12〕

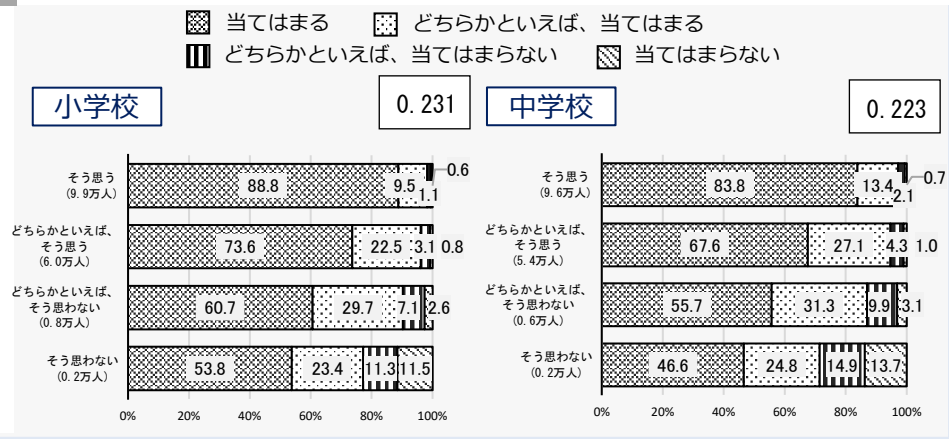


クロス集計（児童生徒）

ICT機器やインターネットについて、ルールやマナーを守って活用することができている。〔37-10〕

［ICTのルールやマナーを守って活用している］×［いじめについての規範意識］

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。〔12〕



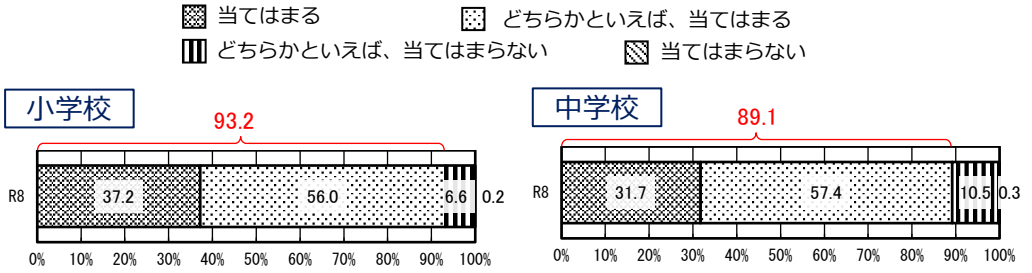
③ 教員研修やサポート

ポイント

- 【p.60】教員がICT機器の効果的な使い方を学ぶための研修や自己研鑽等の機会を十分に設けていると考えている学校、ICT機器の活用に関して学校内外のサポートを受けられていると考えている学校は、小学校・中学校ともに約８～９割。
- 【p.60】そのような学校ほど、ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行っていると考えている割合が高い。

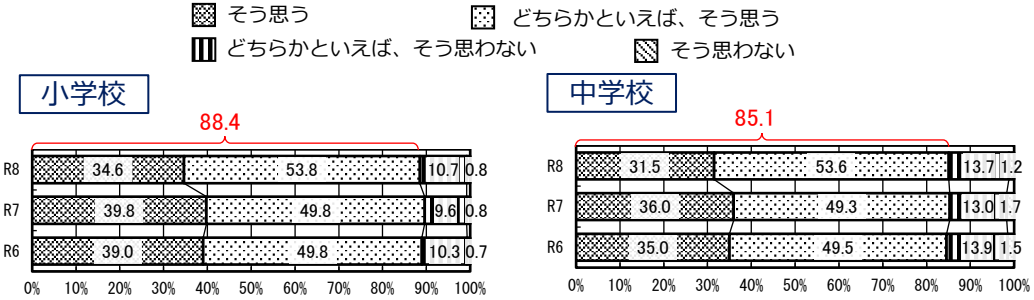
学校質問
小学校〔58〕
中学校〔66〕

児童〔生徒〕が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか。【新規】



学校質問
小学校〔59〕
中学校〔67〕

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。

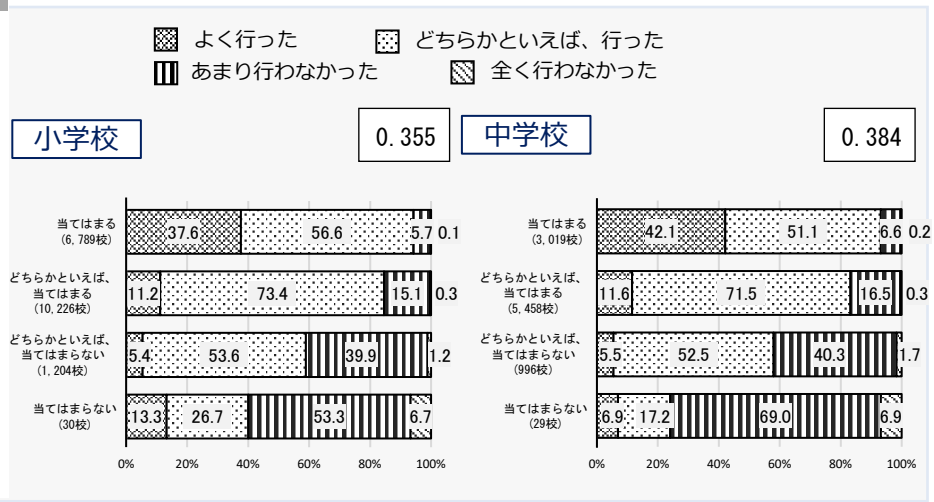


クロス集計（学校質問）

児童〔生徒〕が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか。〔58・66〕

［ICT研修の機会を十分に設けている］×［ICTを活用して見方・考え方を働かせる学習指導を行っている］

ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行いましたか。〔68・76〕

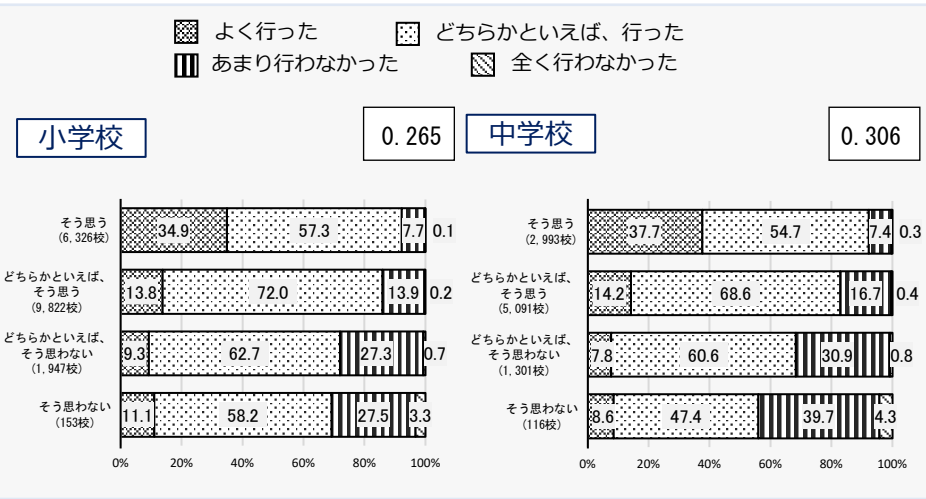


クロス集計（学校質問）

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。〔59・67〕

［ICT活用についての十分なサポート］×［ICTを活用して見方・考え方を働かせる学習指導を行っている］

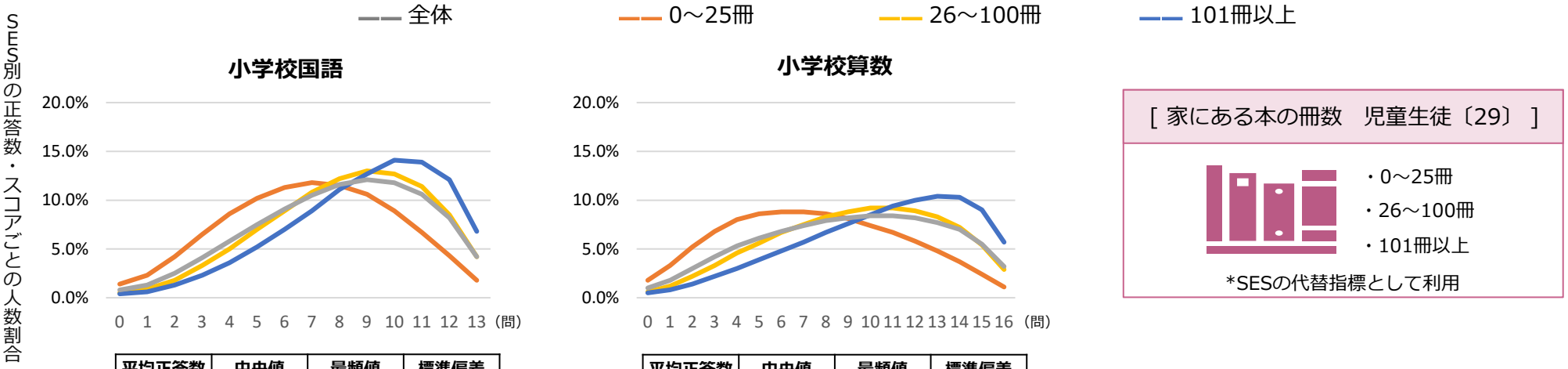
ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行いましたか。〔68・76〕



「社会経済的背景（SES）」×「正答数・スコア」の関係

○ 今回の調査でも、家庭の社会経済的背景（SES：Socio-Economic Status）*が低いグループほど、各教科の正答数・スコアが低い傾向が見られる。

*本調査では、児童生徒質問調査〔29〕「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用



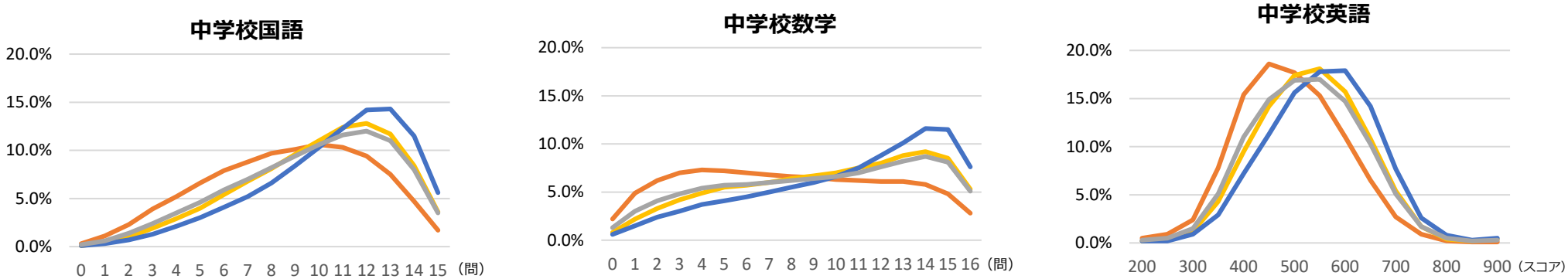
[家にある本の冊数　児童生徒〔29〕]

・0～25冊
・26～100冊
・101冊以上

*SESの代替指標として利用

	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
0～25冊(30.3万人)	6.9	7	7	3
26～100冊(29.4万人)	8.2	8	9	2.8
101冊以上(28.4万人)	8.9	9	10	2.8
全国（国公私）	7.9	8	9	3.0

	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
(30.3万人)	7.5	7	7	3.9
(29.4万人)	9.4	10	10	3.8
(28.4万人)	10.5	11	13	3.7
	9.1	9	11	4.0



	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
0～25冊(30.3万人)	8.7	9	10	3.4
26～100冊(25.8万人)	9.9	10	12	3.1
101冊以上(26.8万人)	10.6	11	13	3.1
全国（国公私）	9.6	10	12	3.3

	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
(30.4万人)	7.9	8	4	4.4
(25.8万人)	9.6	10	14	4.3
(26.8万人)	10.5	11	14	4.1
	9.2	10	14	4.5

	平均スコア	中央値	最頻値	標準偏差
(1.7万人)	467	462	—	103
(1.4万人)	508	507	—	105
(1.4万人)	531	534	—	106
	499	499	—	108

「社会経済的背景（SES）」×「ICTの活用」×「教科の正答率・スコア」の関係

三重クロス集計

○　家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低いほど、各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られる。一方で、SESが低い状況にあっても、 ICT機器を活用する自信がある生徒は、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。例えば、「ICT機器を使って学校でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」という質問について、低SESグループであっても「そう思う」と答えた生徒は、高SESグループで「そう思わない」と答えた生徒より平均正答率・スコアが高い傾向がある。また、低SESグループは高SESグループと比べて相関係数が高くなっており、特に低SESグループの学力向上（SESによる学力格差の緩和）への寄与が示唆される。同様の傾向が小学校においても見られる。

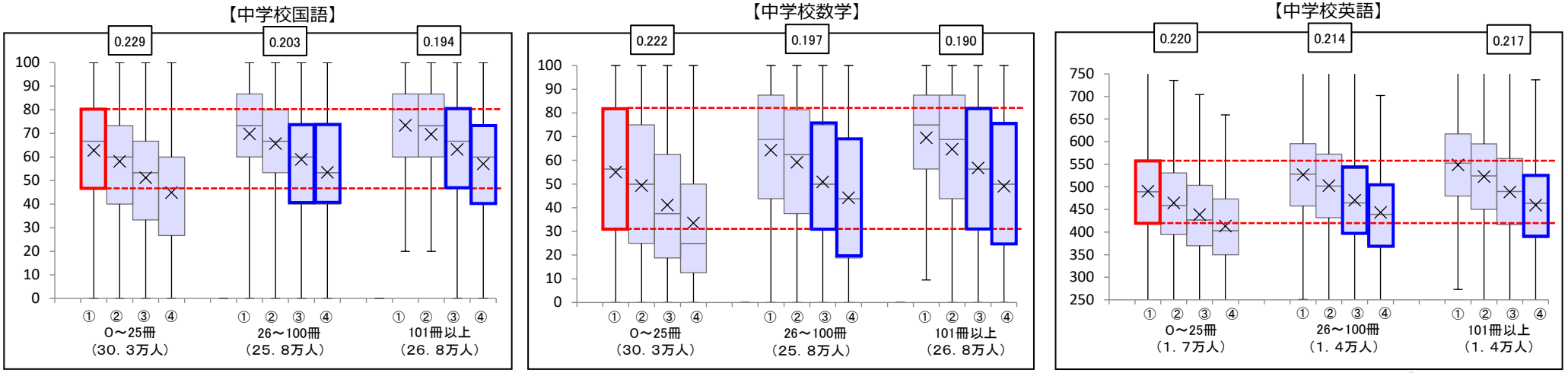
○　なお、「ICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる」という質問においても、小・中学校ともに同様の傾向が見られる。

*本調査では、児童生徒質問調査での「家にある本の冊数」（生徒〔29〕）をSESの代替指標として利用している。

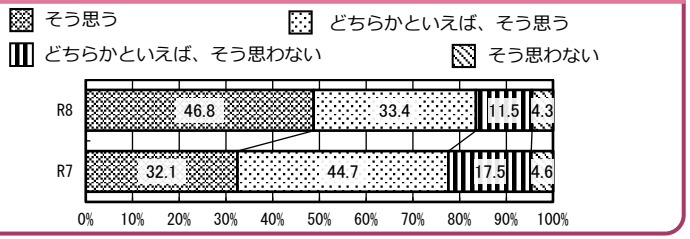
［家にある本の冊数］×［ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成することができる］×［教科の正答率・スコア］

①　そう思う　②　どちらかといえば、そう思う
③　どちらかといえば、そう思わない　④　そう思わない

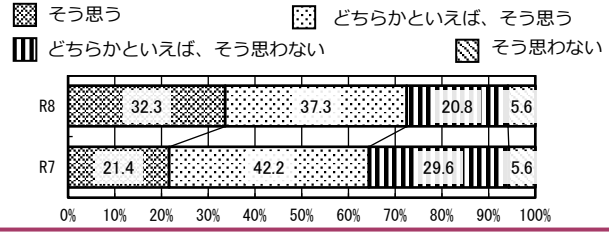
［各教科の正答率・スコア］



生徒質問〔36-4〕　あなたは、自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。



生徒質問〔36-3〕　あなたは、自分がタブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。



グラフの見方

- 例えば、中学校国語では、低SESグループ（本が０～25冊）でICTの活用の質問に「①」と回答した生徒の箱ひげ図の箱は、中SESグループ（本が26～100冊）、高SESグループ（本が101冊以上）で「③」、「④」と回答した生徒の箱より上の位置にある。
- ×は、各選択肢の平均値を表している。
- 箱ひげ図の上部にある四角内の数値は、各SESグループごとの相関係数を示している。

(3) 教科に関する意識や学習活動の状況

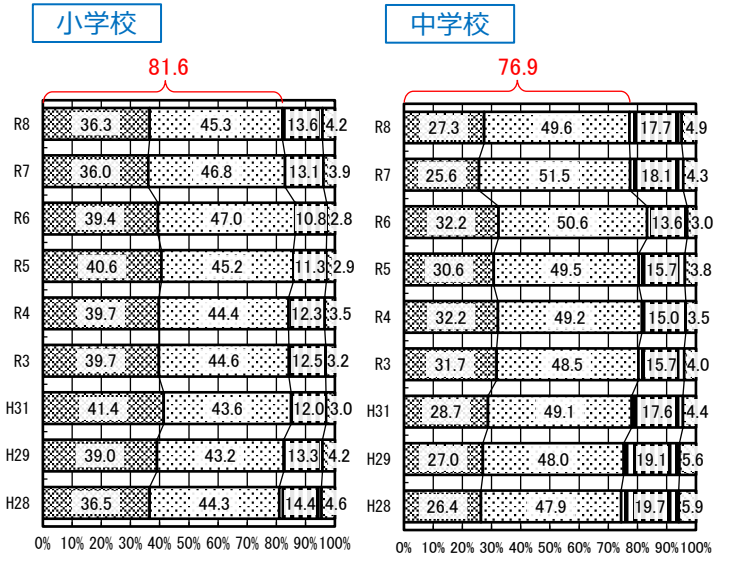
① 各教科に対する興味・関心や授業の理解度

ポイント

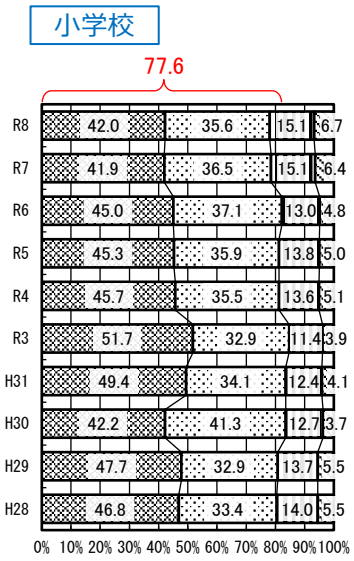
- 【p.63】「授業の内容はよく分かる」と回答している児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
- 【p.64】中学校英語について、「勉強は得意」「勉強は好き」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答している生徒ほど、スコアが高い傾向が見られる。

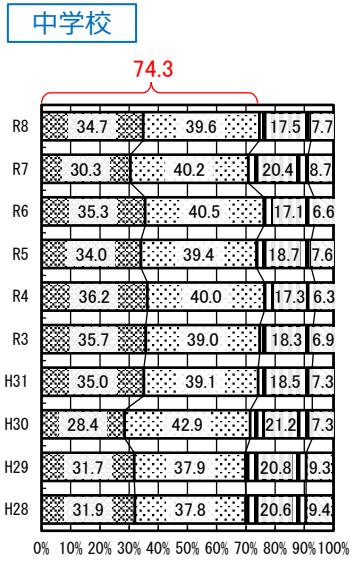
当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

児童〔54〕生徒〔54〕 国語の授業の内容はよく分かりますか。

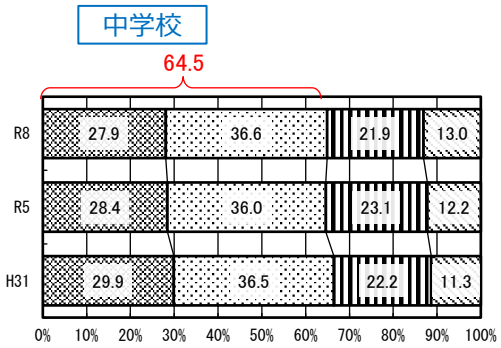


児童〔62〕生徒〔62〕 算数〔数学〕の授業の内容はよく分かりますか。

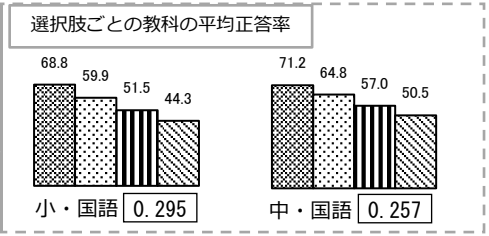




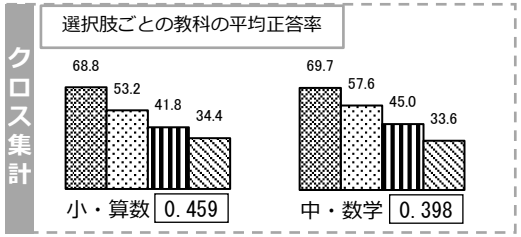
生徒〔71〕 英語の授業の内容はよく分かりますか。



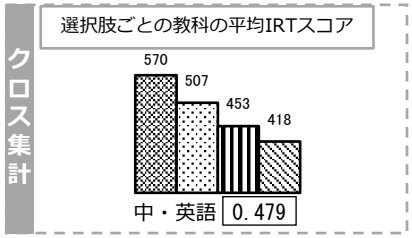
クロス集計



クロス集計

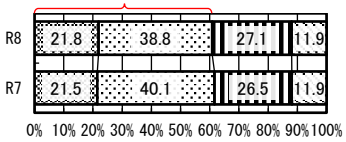


クロス集計

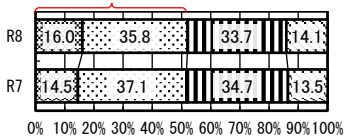


児童〔52〕 生徒〔52〕 国語の勉強は得意ですか。

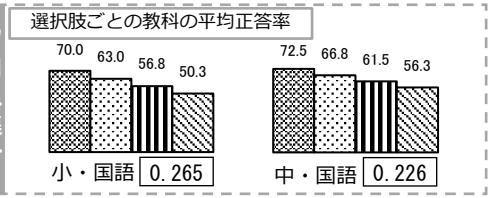
小学校



中学校

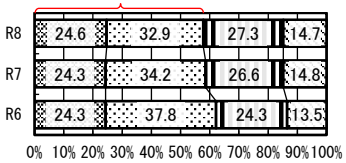


クロス集計

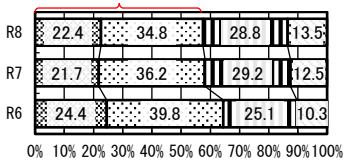


児童〔53〕 生徒〔53〕 国語の勉強は好きですか。

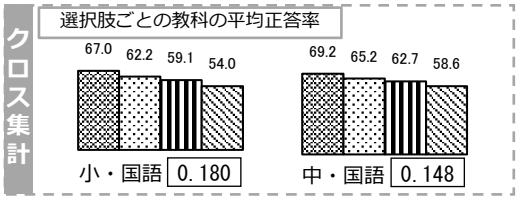
小学校



中学校

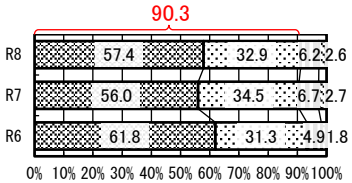


クロス集計

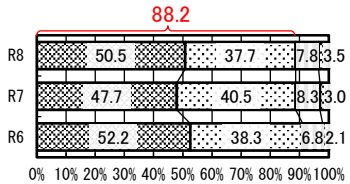


児童〔55〕 生徒〔55〕 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

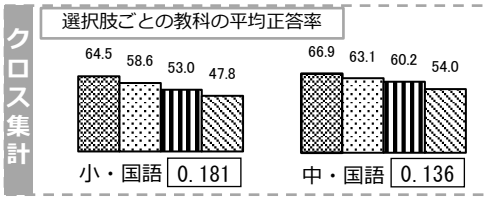
小学校



中学校

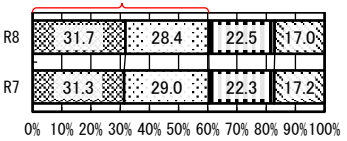


クロス集計



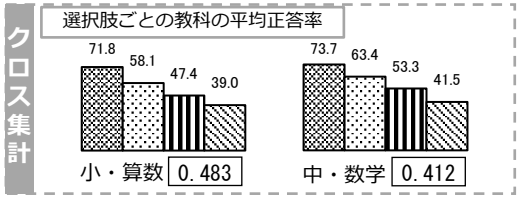
児童〔60〕 生徒〔60〕 算数〔数学〕の勉強は得意ですか。

小学校



中学校

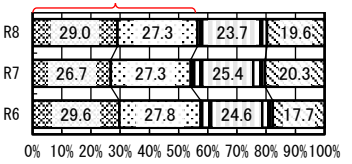
クロス集計



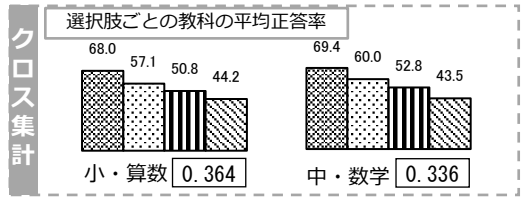
児童〔61〕 生徒〔61〕 算数〔数学〕の勉強は好きですか。

小学校

中学校

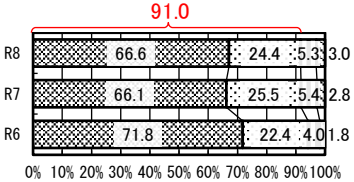


クロス集計

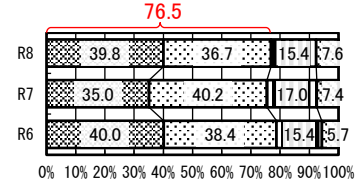


児童〔63〕 生徒〔63〕 算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

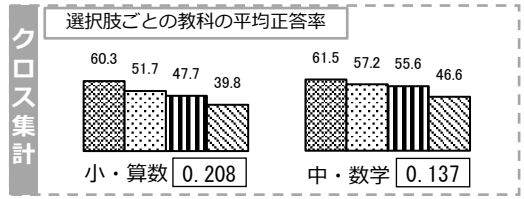
小学校



中学校

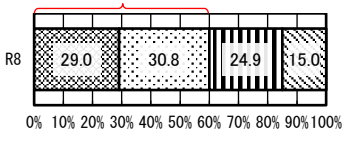


クロス集計

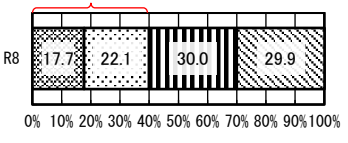


児童〔69〕 生徒〔69〕 英語の勉強は得意ですか。【新規】

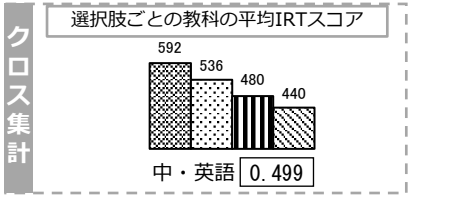
小学校



中学校

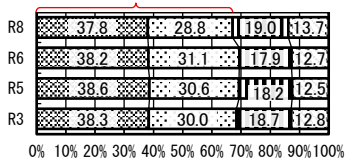


クロス集計

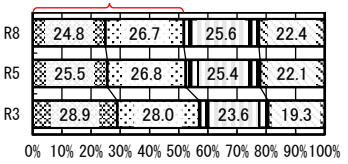


児童〔70〕 生徒〔70〕 英語の勉強は好きですか。

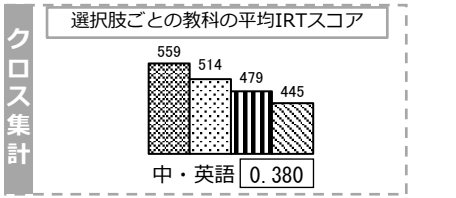
小学校



中学校

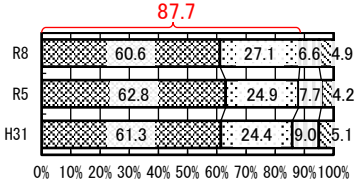


クロス集計

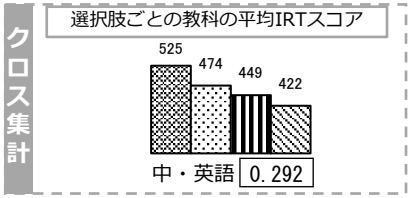


生徒〔72〕 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

中学校



クロス集計



② 男女差

ポイント

- 【p.65】男女別に平均正答率・スコアを比較すると、国語は小・中学校とも女子が男子を上回った。小学校算数、中学校数学、中学校英語については、大きな男女差は見られなかった。
- 【pp.65-66】各教科の「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という意識は、いずれの教科においても大きな男女差は見られなかった。算数・数学について、平均正答率に大きな男女差が見られないにも関わらず、「勉強は得意」「勉強は好き」と回答した割合は、男子が女子を上回った。

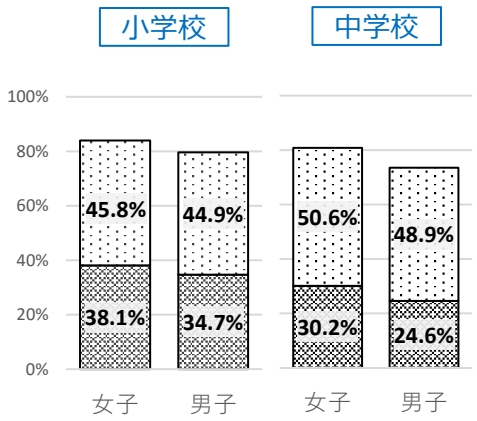
平均正答率・スコア（男女別）

	小・国語	中・国語	小・算数	中・数学	中・英語
女子（a）	65.2%	68.6%	55.5%	58.9%	510
男子（b）	57.7%	60.7%	58.3%	57.0%	490
女子（a）－男子（b）	**7.5**	**7.9**	**-2.8**	**1.9**	**20**

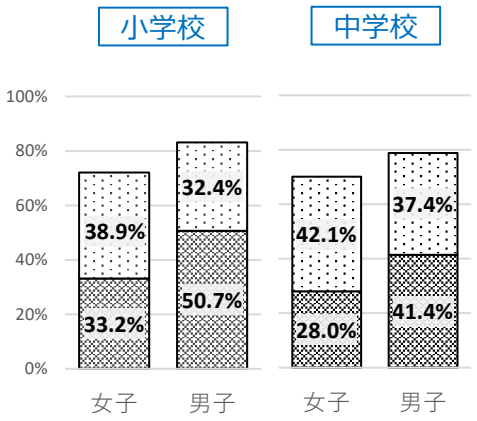
各教科の興味・関心、理解度（男女別）

▨ 当てはまる　⁘ どちらかといえば、当てはまる

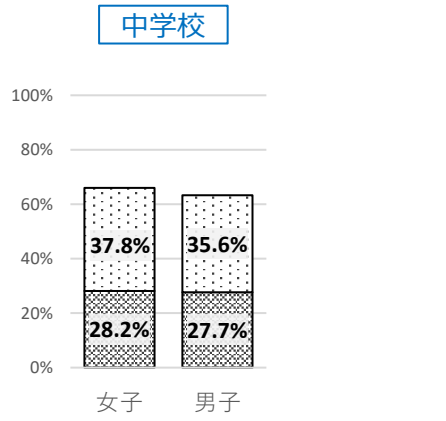
児童〔54〕生徒〔54〕 国語の授業の内容はよく分かりますか。



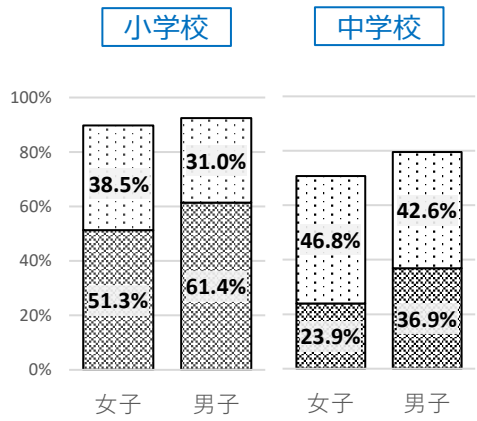
児童〔62〕生徒〔62〕 算数〔数学〕の授業の内容はよく分かりますか。



生徒〔71〕 英語の授業の内容はよく分かりますか。

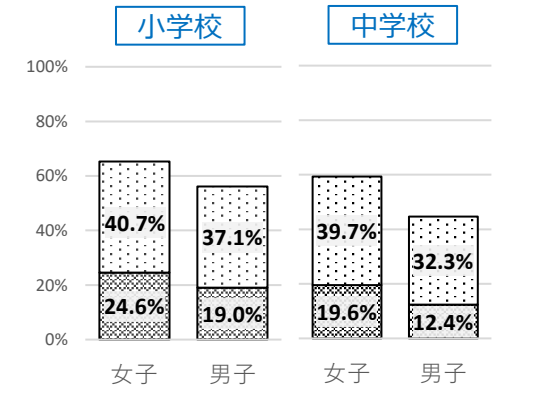


児童〔68-3〕生徒〔68-3〕 理科の授業の内容はよく分かりますか。

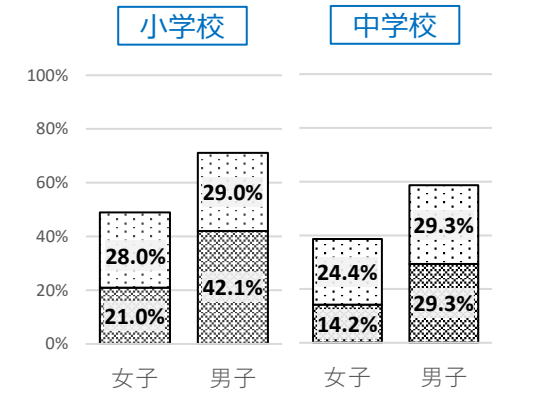


当てはまる　どちらかといえば、当てはまる

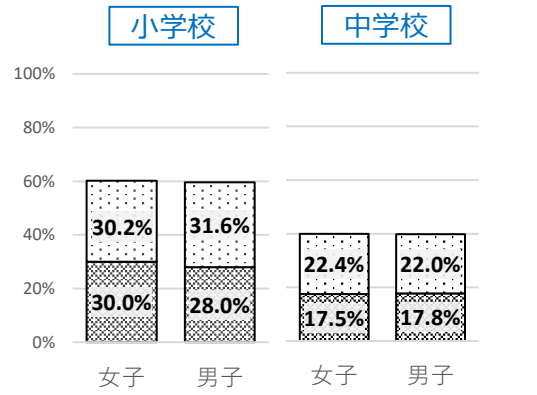
児童〔52〕
生徒〔52〕
国語の勉強は得意ですか。



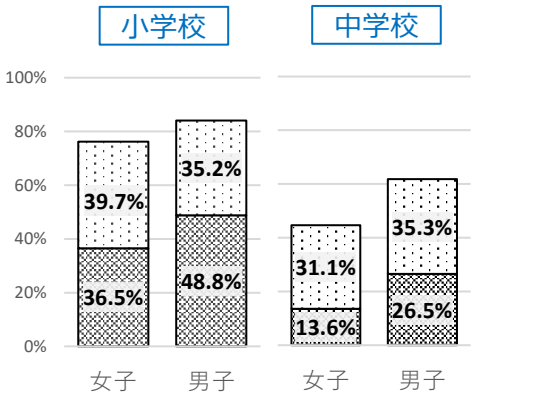
児童〔60〕
生徒〔60〕
算数〔数学〕の勉強は得意ですか。



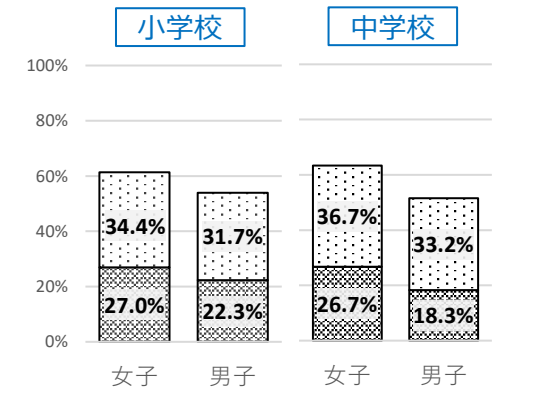
児童〔69〕
生徒〔69〕
英語の勉強は得意ですか。



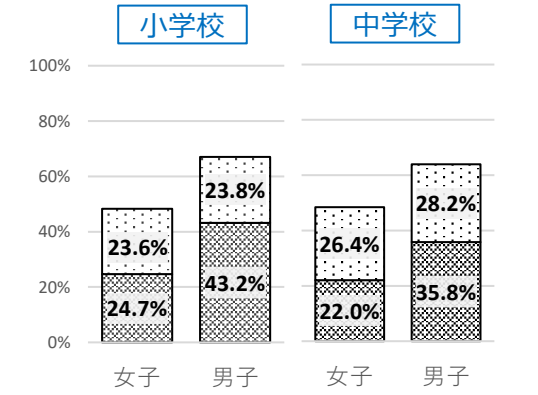
児童〔68-1〕
生徒〔68-1〕
理科の勉強は得意ですか。



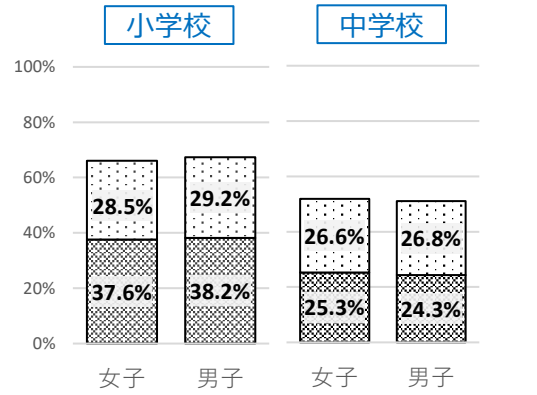
児童〔53〕
生徒〔53〕
国語の勉強は好きですか。



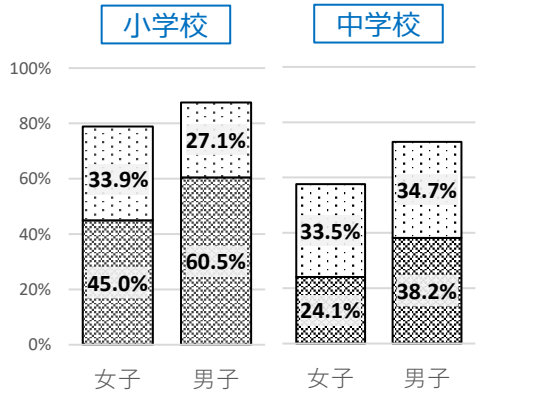
児童〔61〕
生徒〔61〕
算数〔数学〕の勉強は好きですか。



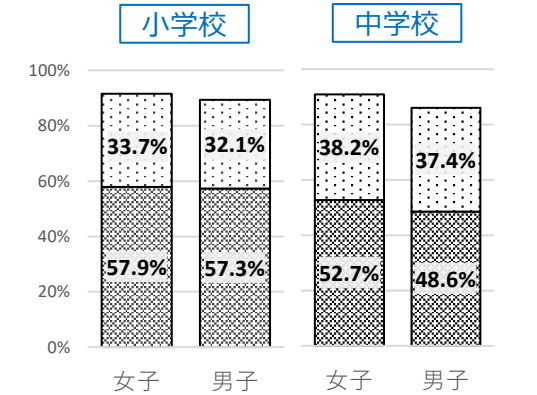
児童〔70〕
生徒〔70〕
英語の勉強は好きですか。



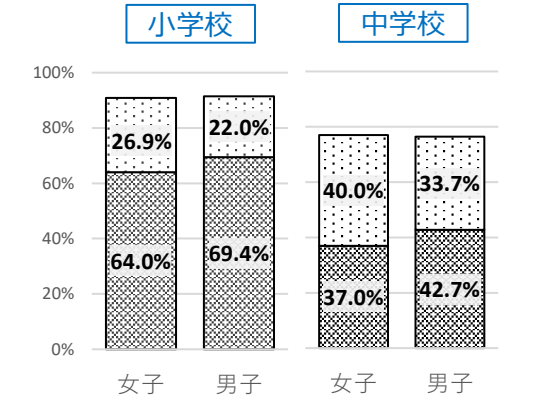
児童〔68-2〕
生徒〔68-2〕
理科の勉強は好きですか。



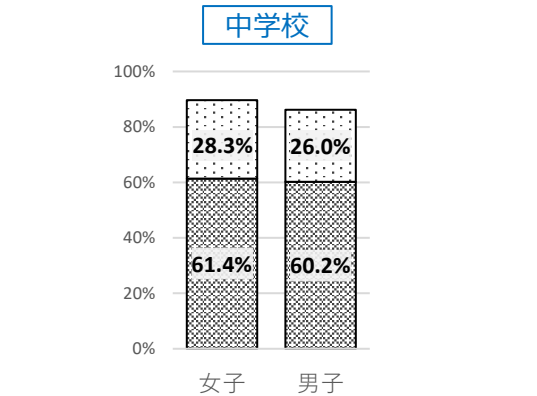
児童〔55〕
生徒〔55〕
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



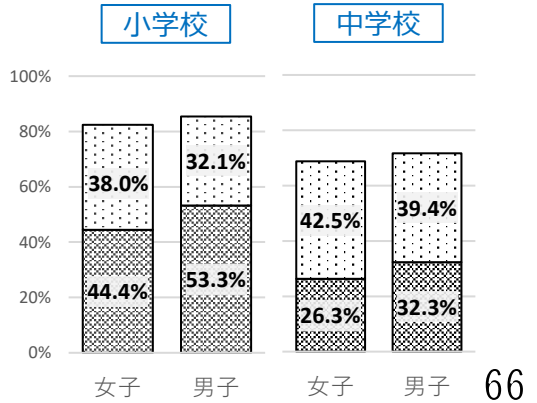
児童〔63〕
生徒〔63〕
算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



生徒〔72〕
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



児童〔68-4〕
生徒〔68-4〕
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

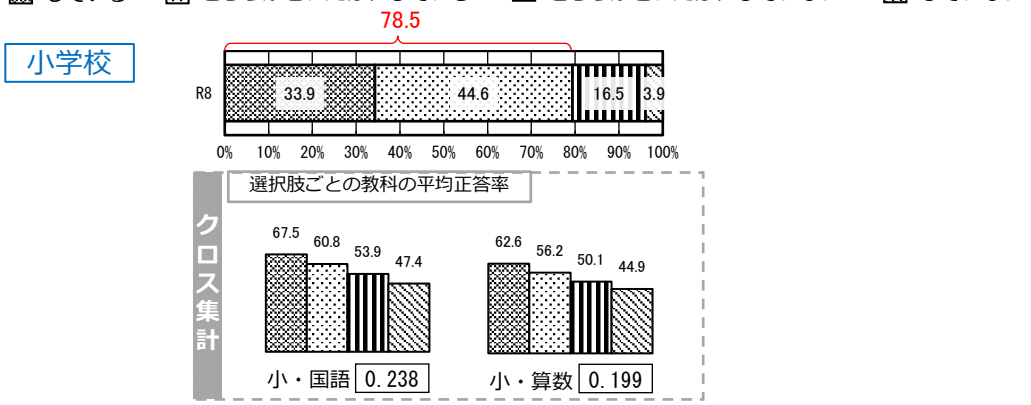


③ 国語科、算数・数学科における思考・判断・表現の取組

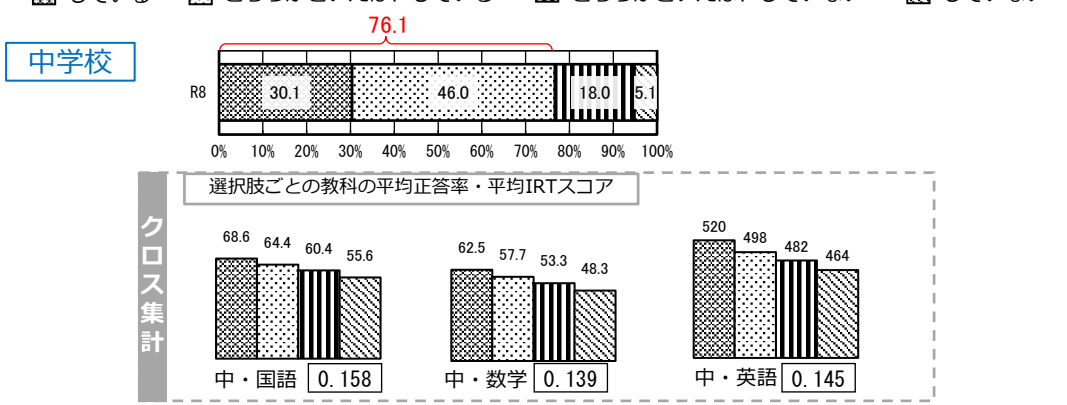
ポイント

- 【p.67】小学校において、「国語の授業で自分の考えをまとめている」「算数の授業でどのように考えたのかについて説明する活動を行っている」と考えている児童ほど、各教科の正答率が高い。また、中学校において、「国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだしている」「数学の授業で文字を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することはできている」と考えている生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い。このように、思考・判断したことを書く、話すなどの活動を通じ表現している児童生徒は、正答率・スコアが高いといえる。

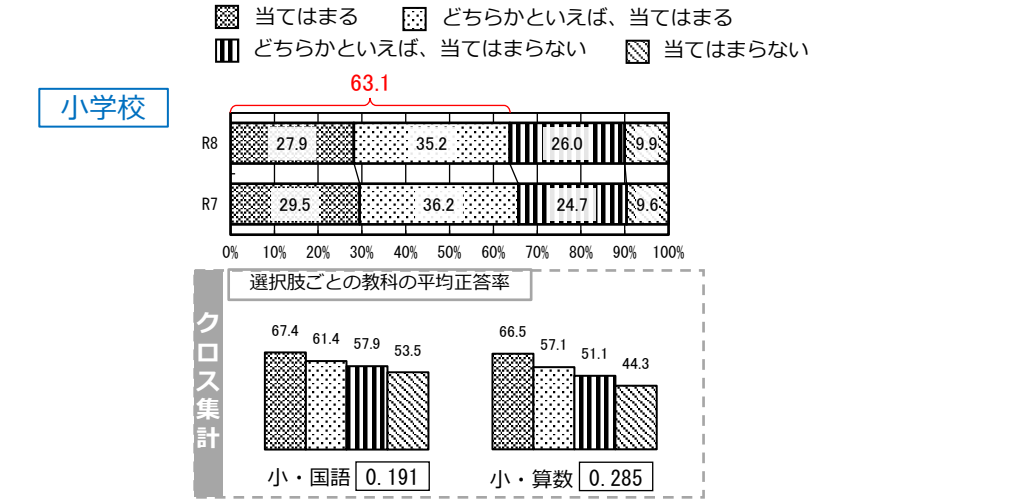
児童〔59〕 国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか。 【新規】



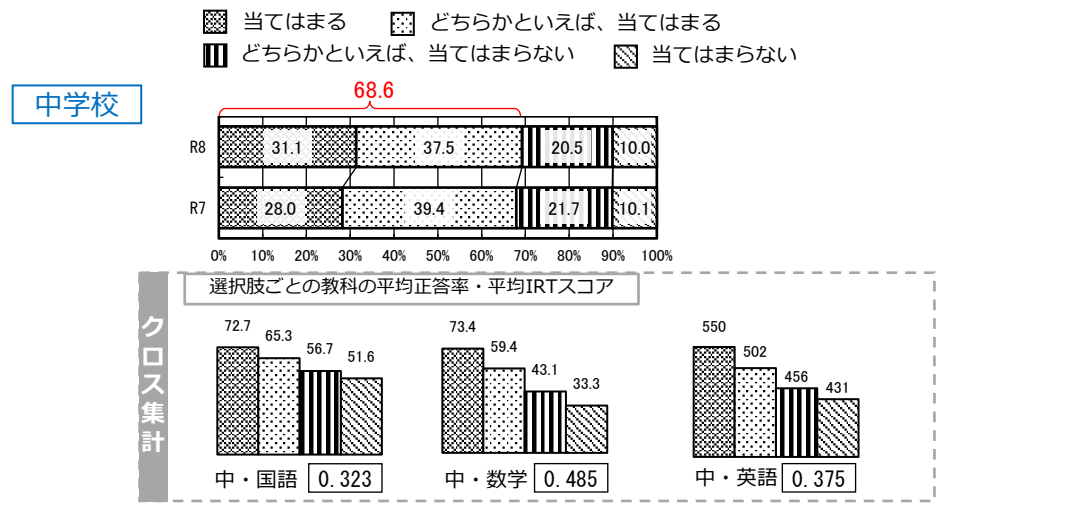
生徒〔59〕 国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだしていましたか。 【新規】



児童〔66〕 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか。



生徒〔67〕 数学の授業で、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができましたか。



④ 外国語科における言語活動の状況

ポイント

- 【pp.68-69】中学校の英語の授業について、学校の言語活動（領域別）の指導状況に関し、８～９割の学校が肯定的な回答を行っている。また、授業において言語活動に取り組んだと受け止めている生徒の方がスコアが高い傾向が見られる。
- 【p.69】授業で「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている生徒ほど、英語「話すこと（やり取り・発表）」の言語活動にも取り組んだと考えている傾向が見られる。

英語については、学校質問調査と生徒質問調査で同一の内容について質問しているため、学校の指導状況（学校質問調査の結果）と生徒の受け止め（生徒質問調査の結果）及び選択肢ごとのIRTスコアを示しています。
なお、生徒質問調査〔77〕では、生徒は〔77-1〕～〔77-5〕の５項目のうちランダムに選ばれた２項目に回答しています。

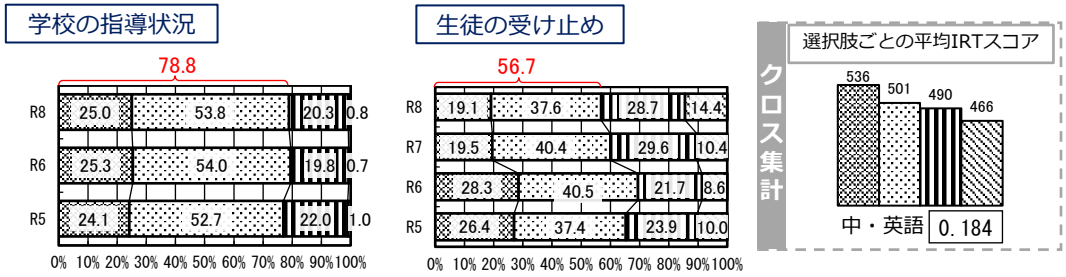
学校調査 中学校〔55〕～〔61〕：調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、次のような指導をどの程度行いましたか。当てはまる番号を１つ選んでください。

よく行った　どちらかといえば、行った　どちらかといえば、行わなかった　行わなかった

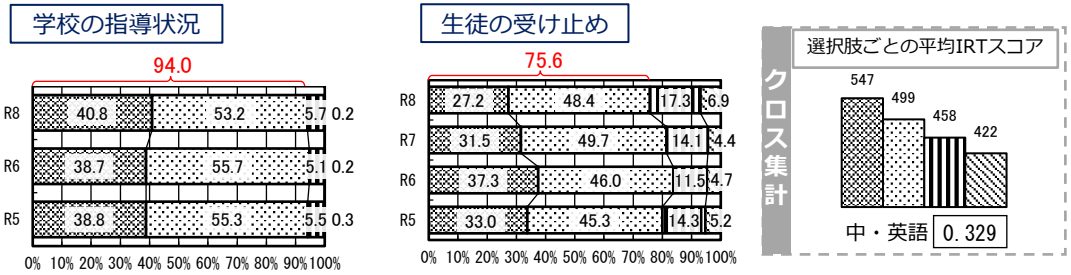
生徒〔77〕：次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。あなたが１、２年生のときに受けた授業を振り返り、最も近い番号を1つ選んでください。

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

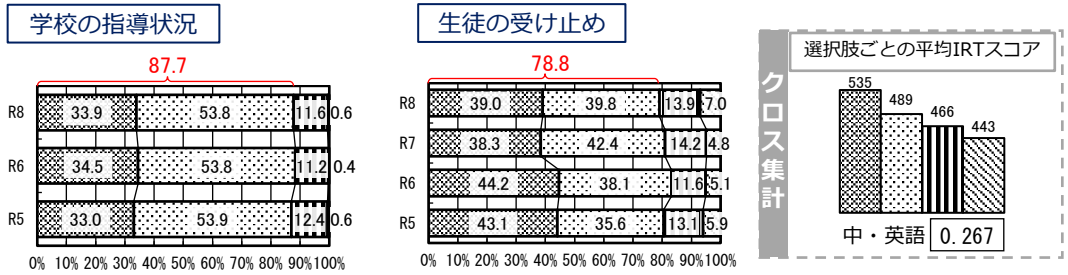
学校〔57〕 生徒〔77-3〕 原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていましたか。



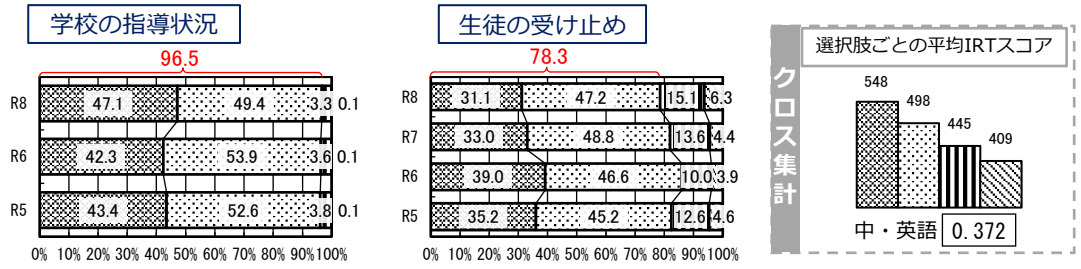
学校〔55〕 生徒〔77-1〕 英文を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていましたか。



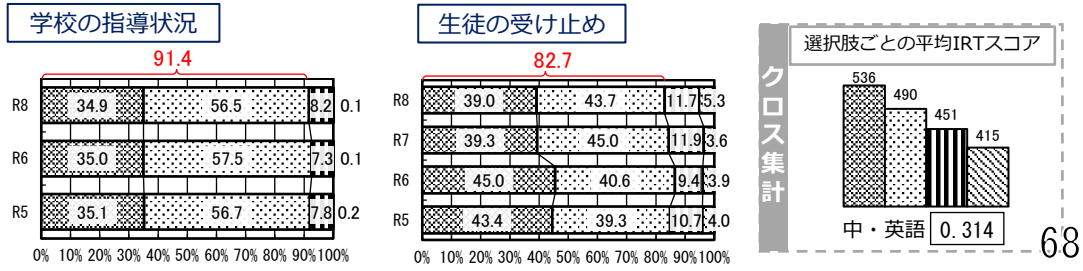
学校〔58〕 生徒〔77-4〕 スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていましたか。



学校〔56〕 生徒〔77-2〕 英文を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていましたか。



学校〔59〕 生徒〔77-5〕 自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていましたか。



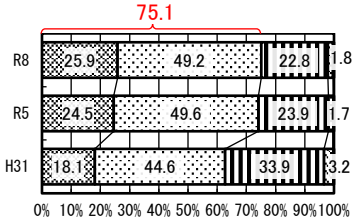
英語については、学校質問調査と生徒質問調査で同一の内容について質問しているため、学校の指導状況（学校質問調査の結果）と生徒の受け止め（生徒質問調査の結果）及び選択肢ごとのIRTスコアを示しています。
なお、各質問項目の選択肢は以下のとおりです。

学校調査
よく行った　どちらかといえば、行った
どちらかといえば、行わなかった　行わなかった

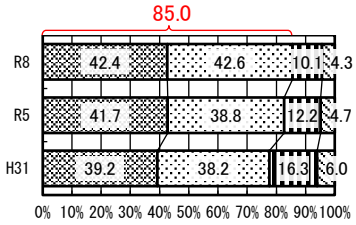
生徒調査
当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

学校〔60〕
生徒〔78〕
聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていましたか。

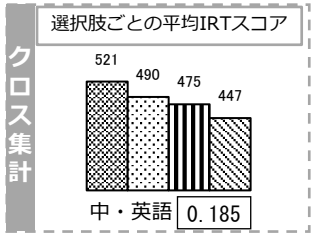
学校の指導状況



生徒の受け止め

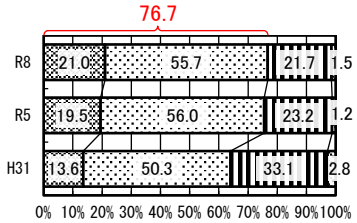


クロス集計

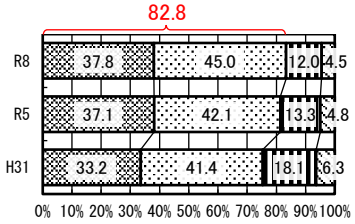


学校〔61〕
生徒〔79〕
聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていましたか。

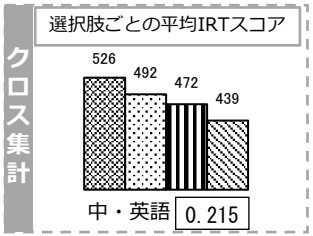
学校の指導状況



生徒の受け止め



クロス集計



「話すこと」の言語活動と「主体的・対話的で深い学び」との関係

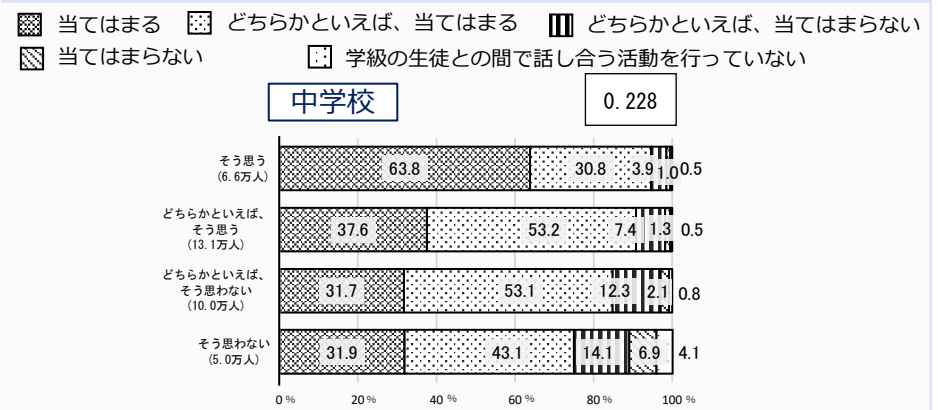
○　授業で「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている生徒ほど、英語「話すこと（やり取り・発表）」の言語活動にも取り組んだと考えている傾向が見られる。

クロス集計（生徒質問）

［「話すこと（やり取り）」の言語活動］×［話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした］

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔42〕

原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていましたか。〔77-3〕



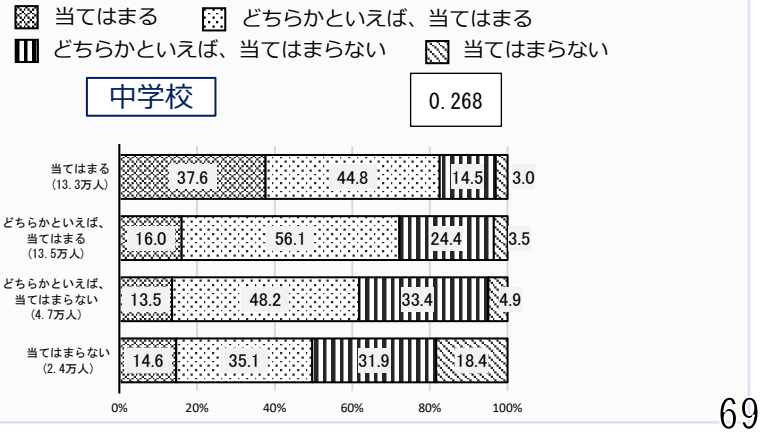
※　相関係数は、児童生徒質問42における「学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない」の回答を除外して算出

クロス集計（生徒質問）

［「話すこと（発表）」の言語活動］×［学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をした］

１、２年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。〔40〕

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていましたか。〔77-4〕



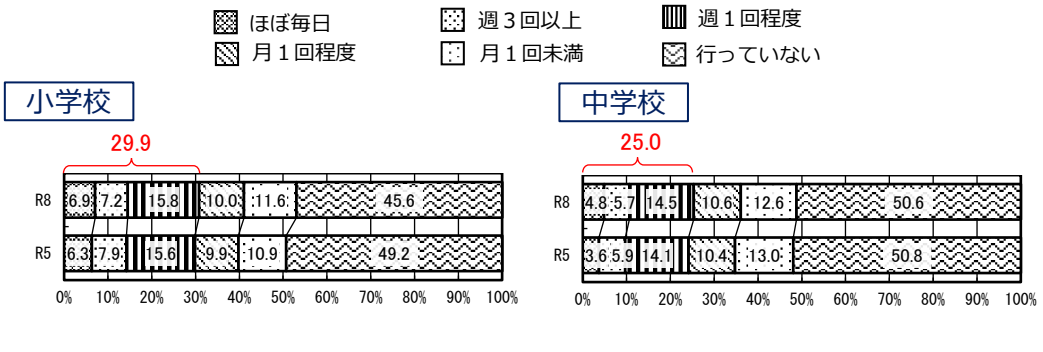
⑤ 授業外における英語学習の取組

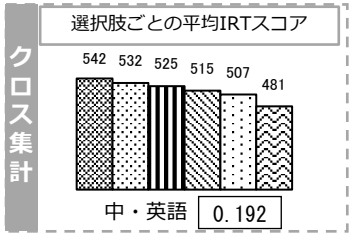
ポイント

- 【p.70】家庭学習の課題として、週１回以上、ICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている児童生徒は約３割。また、その頻度が多い生徒ほど、英語のスコアが高い傾向が見られる。
- 【p.70】「学校の授業以外で英語を使う機会があった」という質問に肯定的に回答している児童は約５割。
- 【p.70】「学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった」という質問に肯定的に回答している生徒は約４割。また、そのような生徒ほど、英語のスコアが高い傾向が見られる。

児童〔73〕
生徒〔76〕

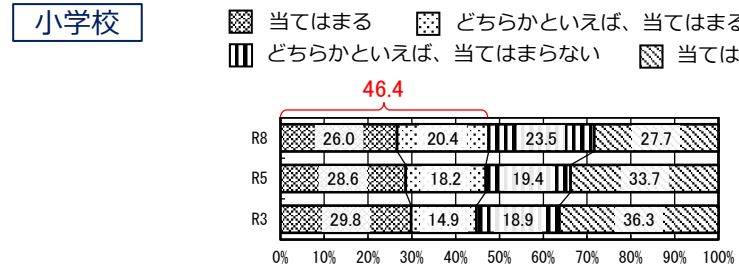
家庭学習の課題（宿題）として、どの程度、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。





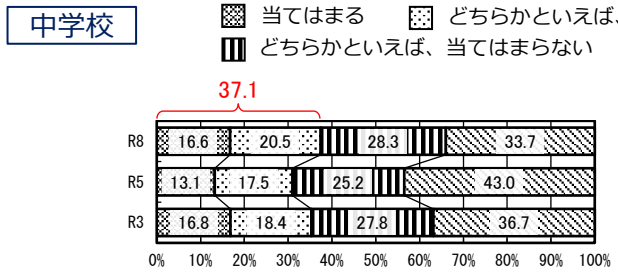
児童〔72〕

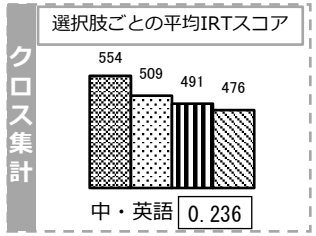
これまで、学校の授業以外で英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビや動画、ホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）。



生徒〔75〕

これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビや動画、ホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）。





(4) 授業外（学校外）での学習や生活の状況

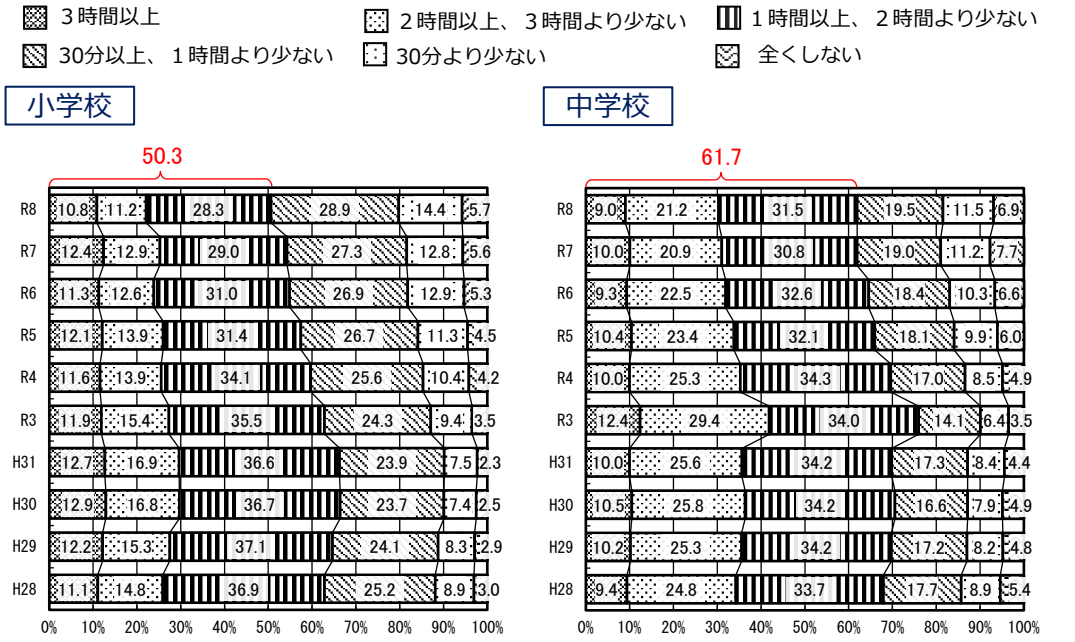
① 授業外の学習状況

ポイント

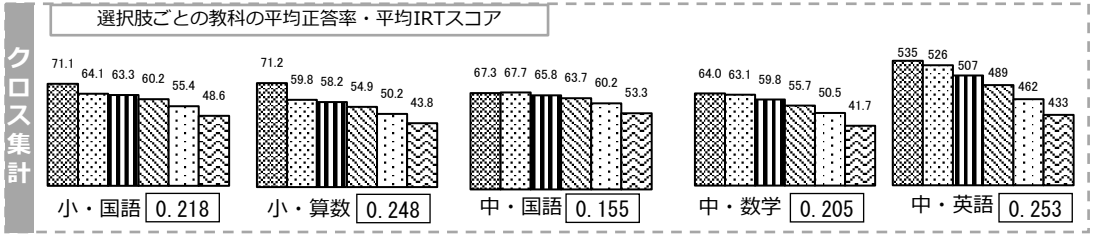
- 【p.71】学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、小学校、中学校とも令和３年度以降、平日、休日いずれも減少傾向。
- 【p.71】学校の授業時間以外における勉強時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

平日の勉強時間

児童〔23〕
生徒〔23〕
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

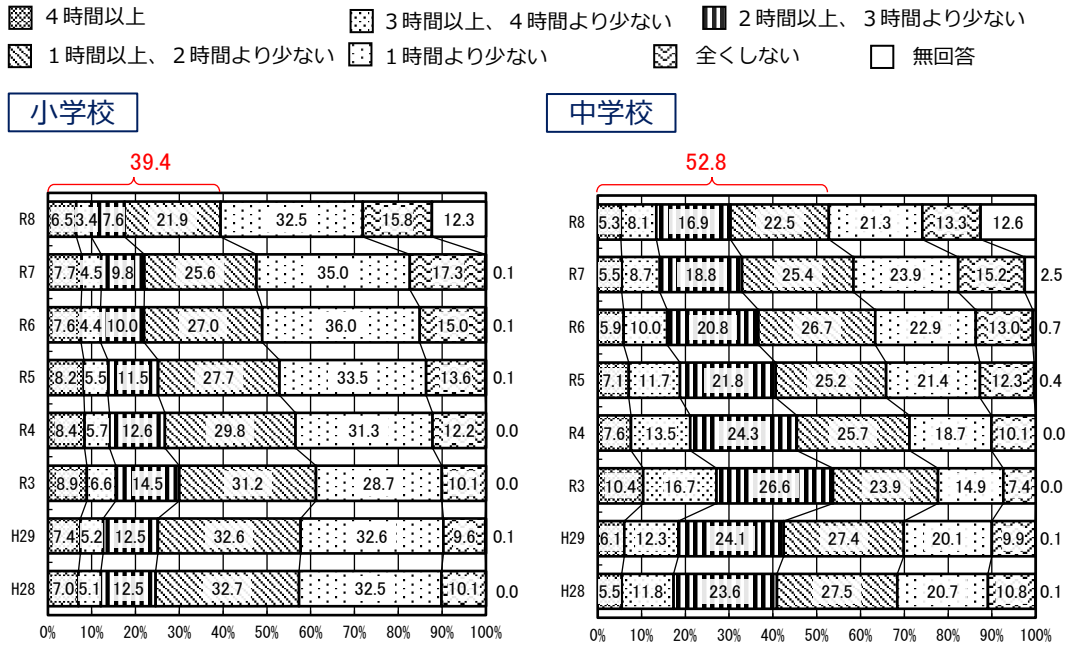


クロス集計

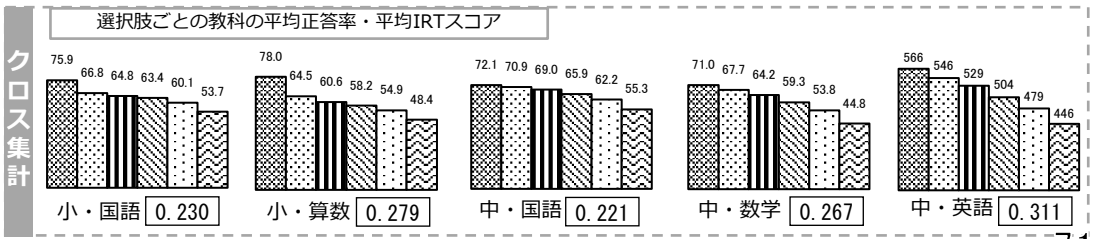


休日の勉強時間

児童〔25〕
生徒〔25〕
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



クロス集計

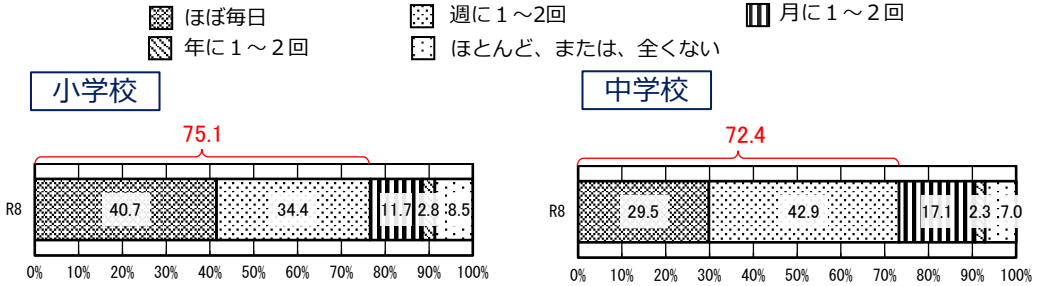


② 授業外（学校外）での学習環境

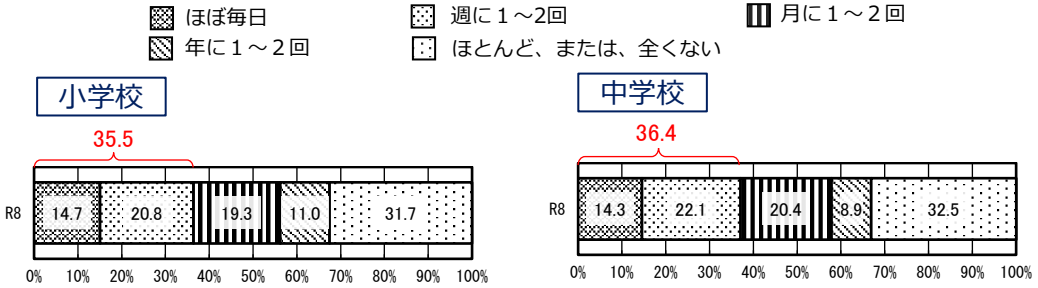
ポイント

- 【p.72】約７割の児童生徒が、週に１回以上、学校の勉強のことについて親や家族と話している。また、約４割の児童生徒が、週に１回以上、学校での悩みについて親や家族と話している。
- 【p.72】学校の勉強のことを親や家族と話していると考える児童生徒ほど、「自分の理解を確認するために、学習したことを振り返る」と考える傾向があり、また、「普段（月曜日から金曜日）の授業時間以外の学習時間」が多い。

児童〔６〕 生徒〔６〕 学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。【新規】



児童〔７〕 生徒〔７〕 学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。【新規】

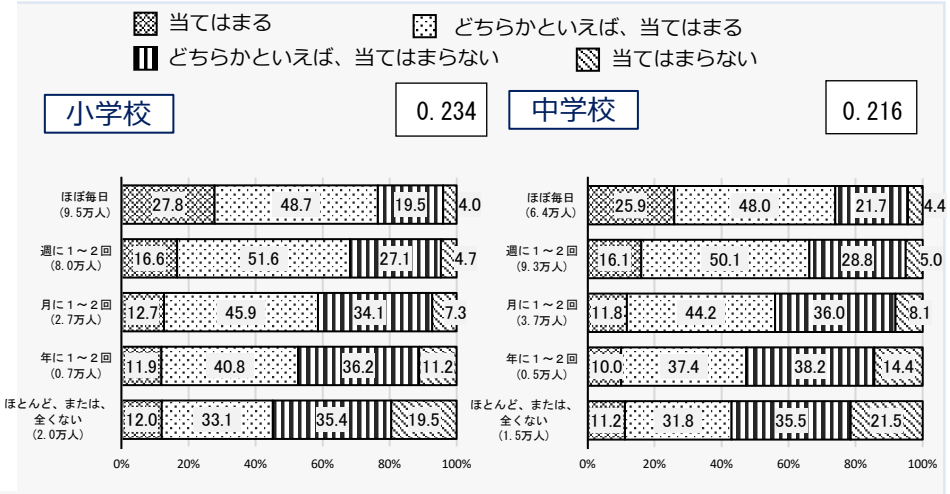


「学校の勉強のことを親や家族と話すこと」の影響

クロス集計（児童生徒）

［学校の勉強のことを親や家族と話すこと］×［自分の理解を確認するために、学習したことを振り返る］

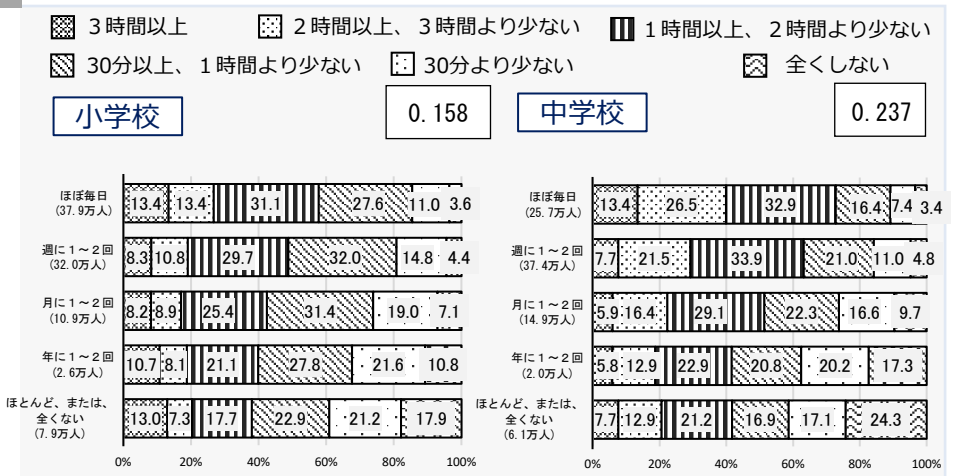
自分が理解したか、何が分かっていないかを確認するために、学習したことを振り返っている。〔32-2〕



クロス集計（児童生徒）

［学校の勉強のことを親や家族と話すこと］×［普段（月曜日から金曜日）の授業時間以外の学習時間］

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。〔23〕

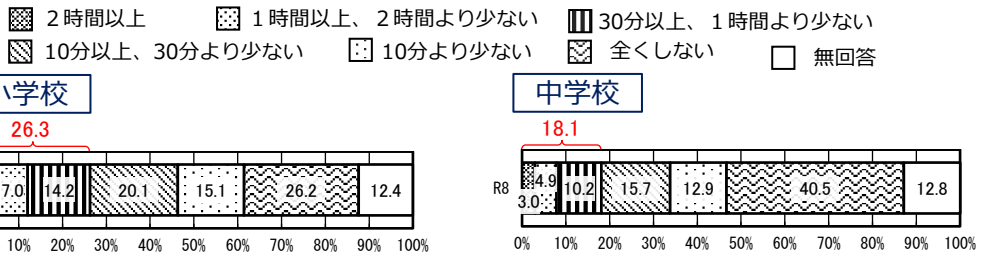


③ 授業外（学校外）での読書の状況

ポイント

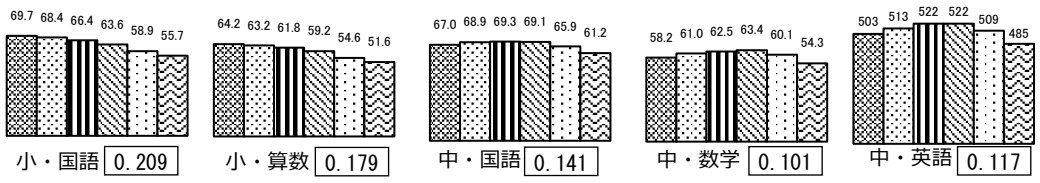
- 【p.73】「読書は好き」「読書は役に立つ」と考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られるが、「読書が好き」と考える児童生徒の割合は減少傾向。
- 【p.74】児童生徒の「読書は役に立つ」に関する回答と「課題解決に向けた積極性」「地域や社会への寄与意識」に関する回答の間には相関が見られる。

児童〔26〕 生徒〔26〕 学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。



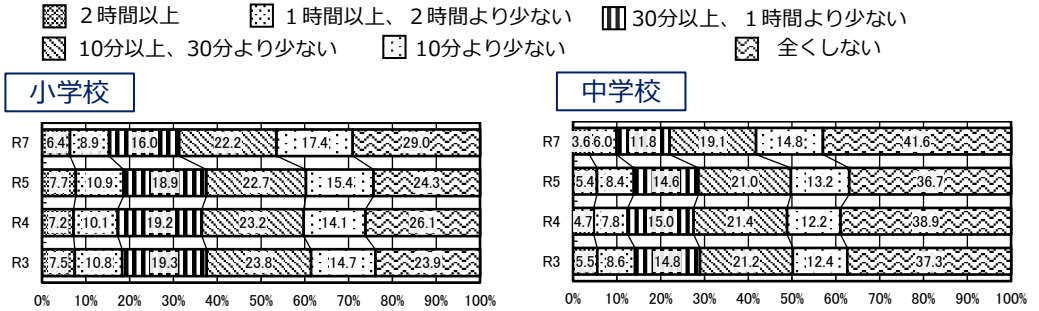
クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

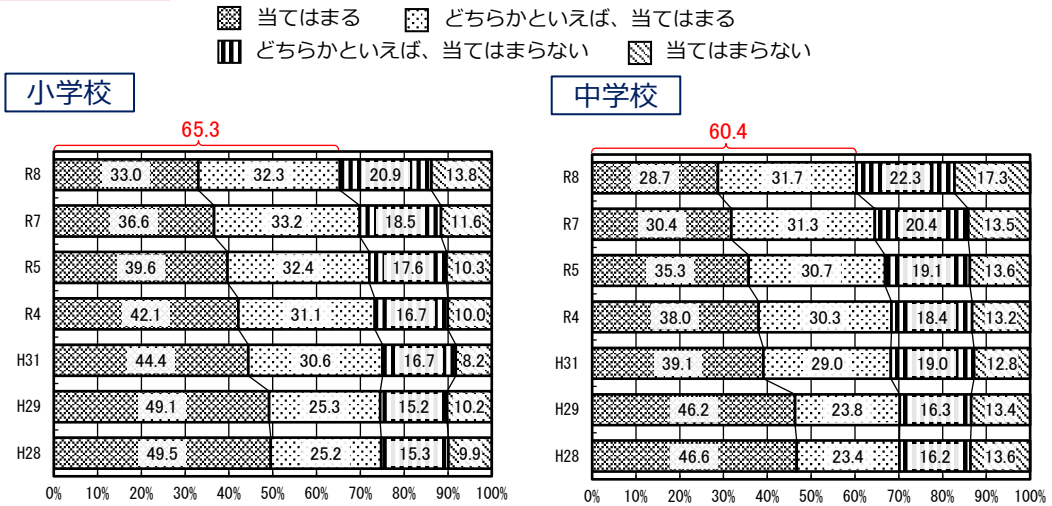


※参考（令和７年度までの調査結果）

児童質問 生徒質問 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。

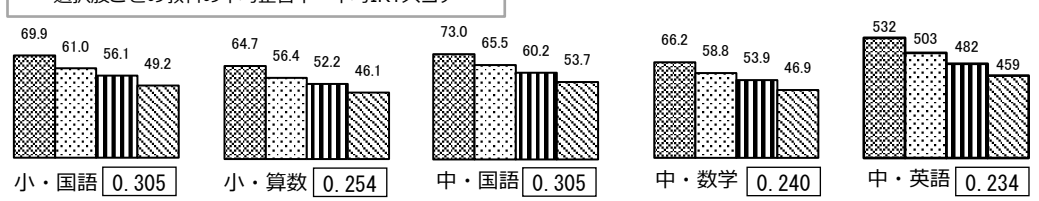


児童〔31-1〕 生徒〔31-1〕 読書は好きですか。

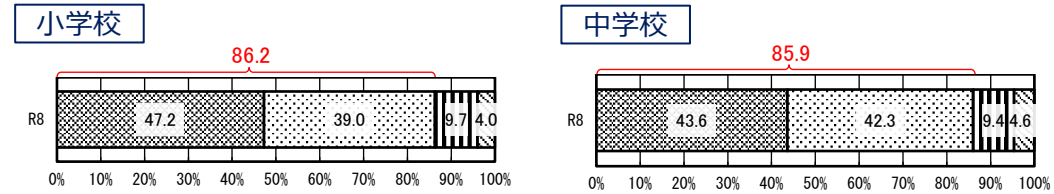


クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

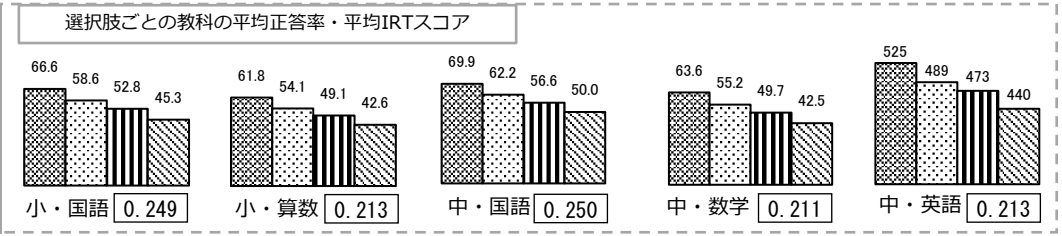


児童〔31-2〕 生徒〔31-2〕 読書は役に立つと思いますか。【新規】



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



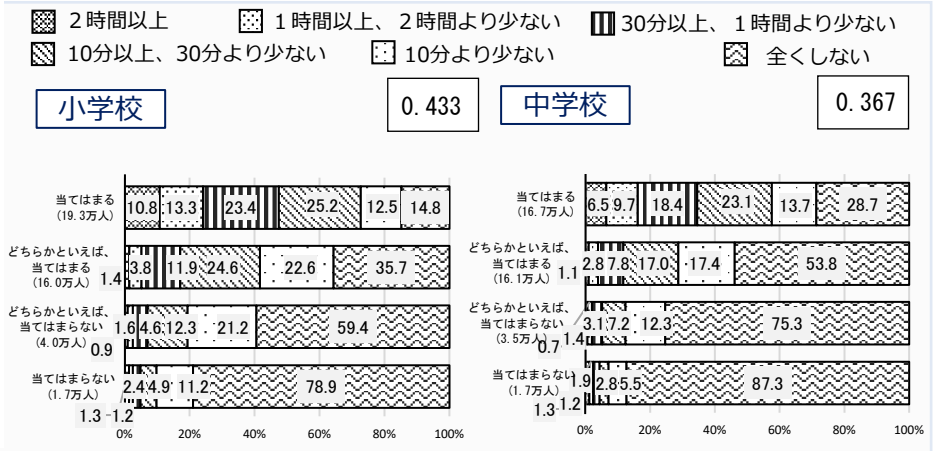
「読書は役に立つ」×「課題解決に向けた積極性」　「地域や社会への寄与意識」

○　児童生徒の「読書は役に立つ」に関する回答と「課題解決に向けた積極性」「地域や社会への寄与意識」に関する回答の間には相関が見られる。読書は役に立つと考えることが、課題解決に向けた積極性や地域・社会への寄与意識に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［読書は役に立つ］×［読書時間］

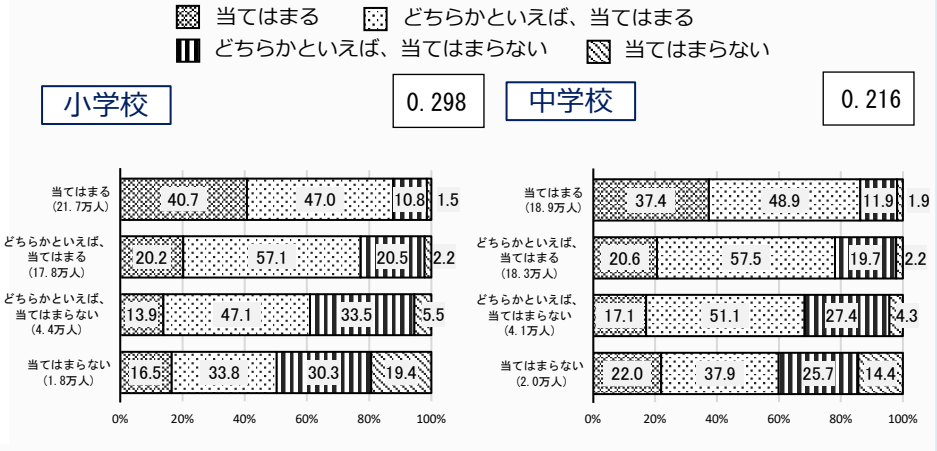
学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。〔26〕



クロス集計（児童生徒）

［読書は役に立つ］×［課題の解決に向けた積極性］

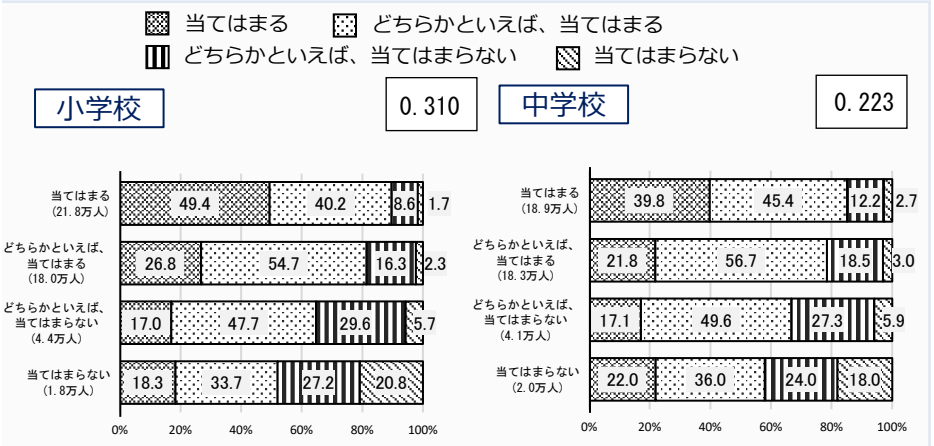
５年生〔１、２年生〕のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔39〕



クロス集計（児童生徒）

［読書は役に立つ］×［授業で学んだことを実生活に生かすことができる］

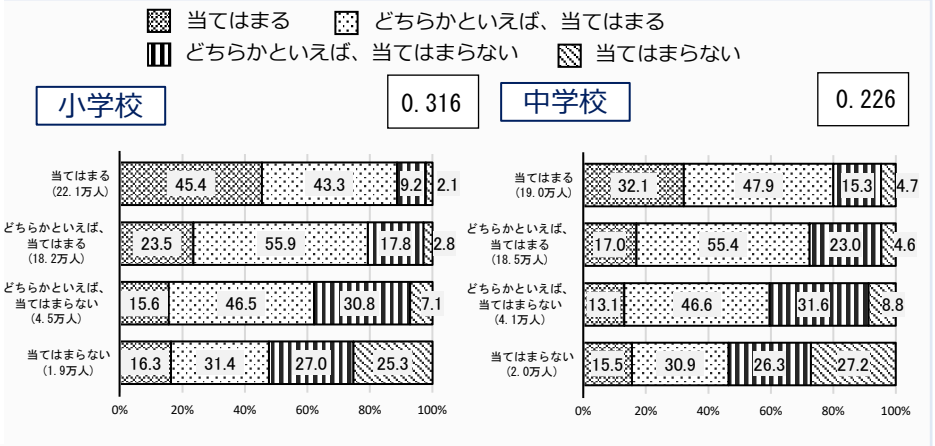
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。〔44〕



クロス集計（児童生徒）

［読書は役に立つ］×［地域や社会への寄与意識］

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔33〕

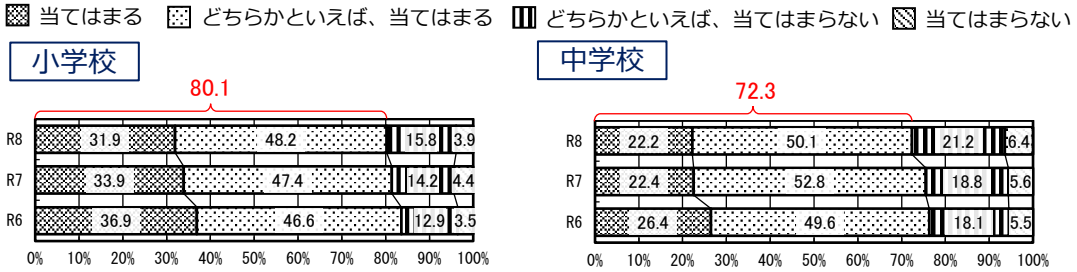


④ 地域や社会にかかわる活動

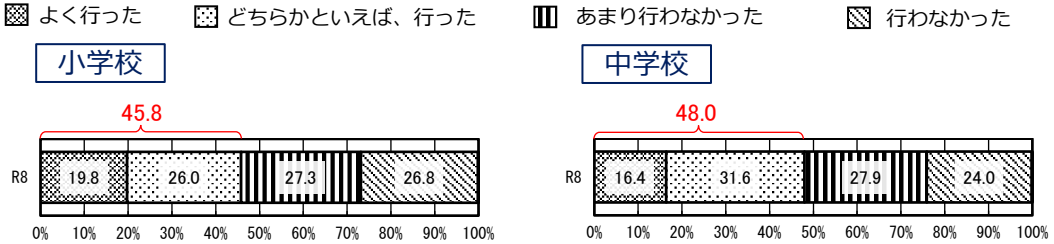
ポイント

- 【p.75】約７～８割の児童生徒が、地域をよくするために何かしてみたいと思っている。また、そのような児童生徒ほど、学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると考える傾向が見られる。
- 【p.75】約５割の学校が、コミュニティ・スクール等の取組を活用して、児童生徒が意見表明できる取組を行ったと考えている。また、地域との連携・協働により地域課題の解決等に貢献したと思う学校ほど、教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていると考える傾向が見られる。

児童〔33〕
生徒〔33〕
地域をよくするために何かしてみたいと思う。



学校質問
小学校〔78〕
中学校〔86〕
コミュニティ・スクールの仕組みや地域学校協働活動等の取組を活用して、学校の運営や教育活動に関し、児童〔生徒〕が意見を表明することができる取り組みを行いましたか。【新規】

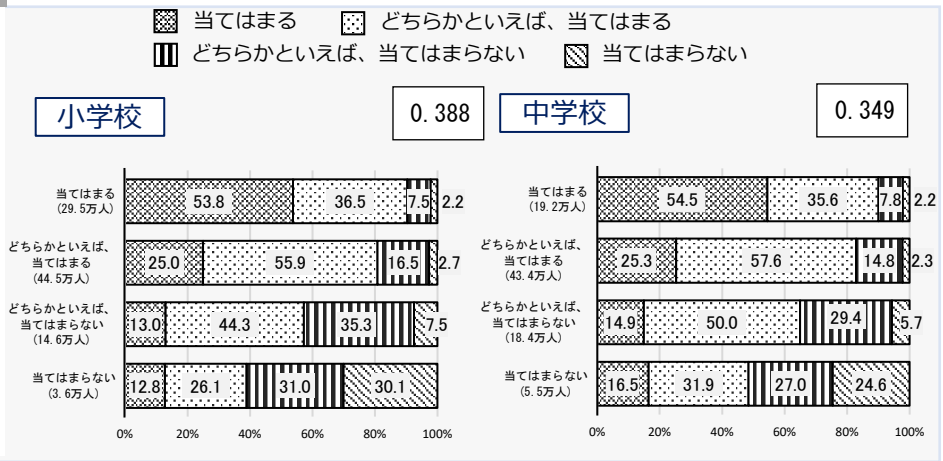


クロス集計（児童生徒）

［地域や社会への寄与意識］×［話合い活動を通じた意思決定による実践］

学級会〔学級活動〕における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。〔50〕

地域をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔33〕

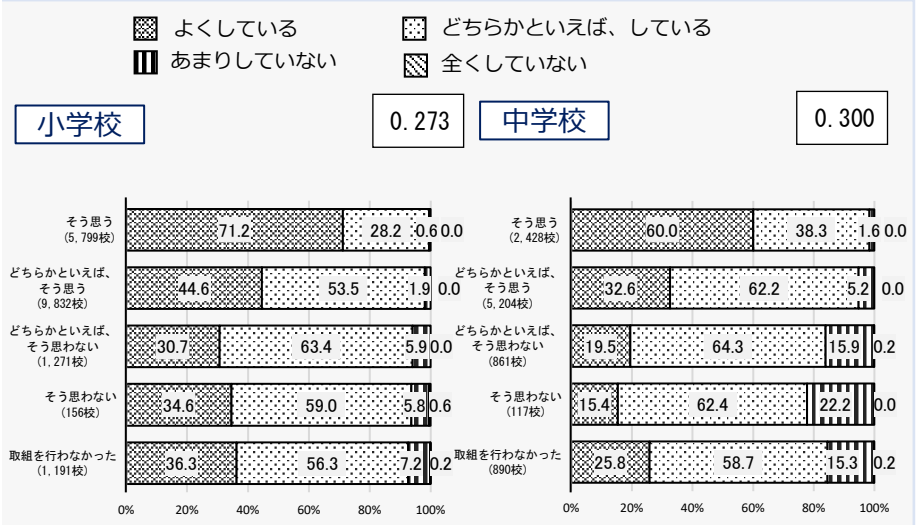


クロス集計（学校質問）

［家庭や地域との連携の効果］×［外部資源の活用を効果的に組み合わせた指導計画の作成］

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。〔18〕

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、学校教育活動の充実や学校課題の解決だけではなく、地域及び家庭の課題解決や地域活動の担い手育成に貢献していたと思いますか。〔80・88〕



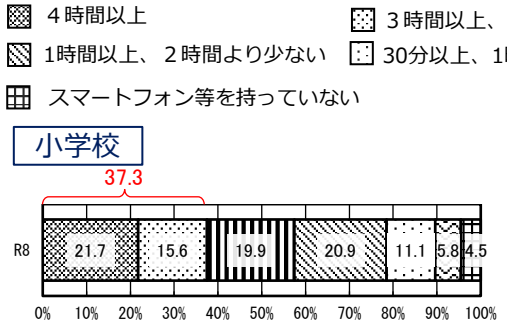
※　相関係数は、児童生徒質問80・88における「取組を行わなかった」の回答を除外して算出

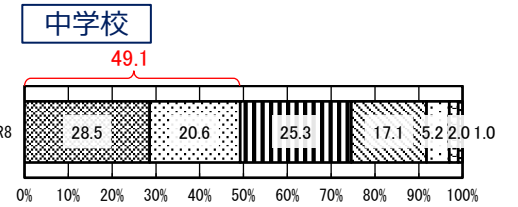
「SNSや動画視聴の長さ」と学力の関係

「ICTを活用する自信」と学力の関係

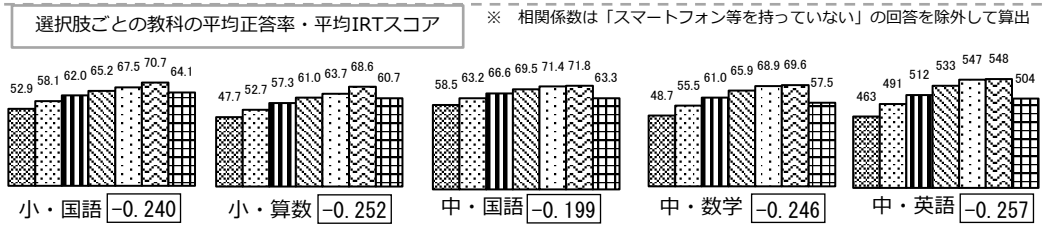
○　SNSや動画視聴等の利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られる。
○　一方で、ICTを活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
○　これらの結果から、ICTを受動的に利用するにとどまらず、主体的・能動的に活用できるよう、授業等を通じた情報活用能力を育成することが、学力向上に寄与する可能性が示唆される。

児童〔4〕 生徒〔4〕 普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間を除く）。



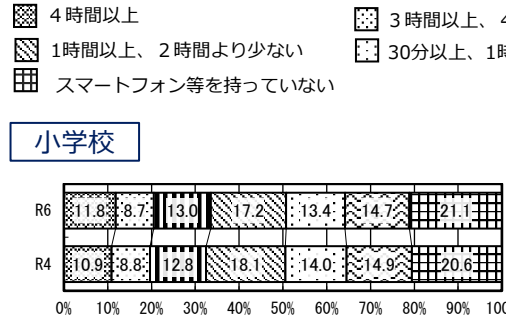


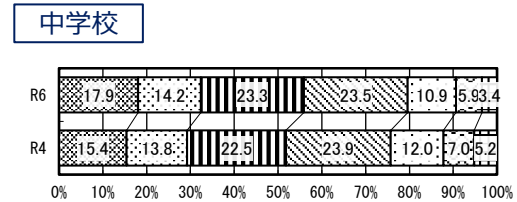
クロス集計



※参考（令和６年度までの調査結果）

児童質問 生徒質問 普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習やゲームをする時間を除く）。

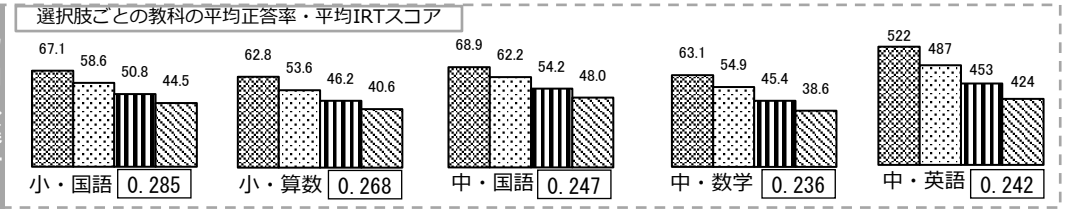




そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない

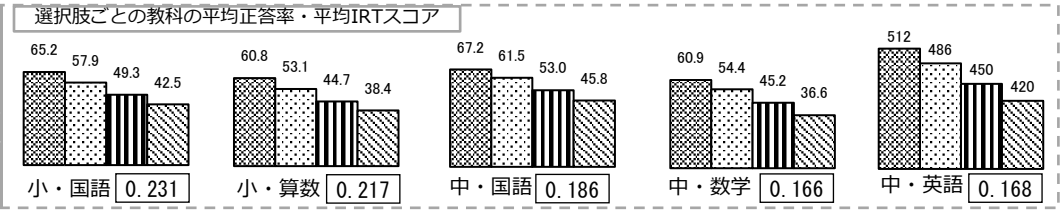
児童〔36-1〕 生徒〔36-1〕 タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか

クロス集計



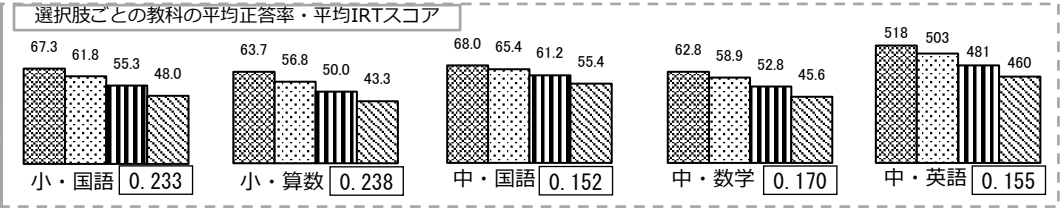
児童〔36-2〕 生徒〔36-2〕 インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

クロス集計



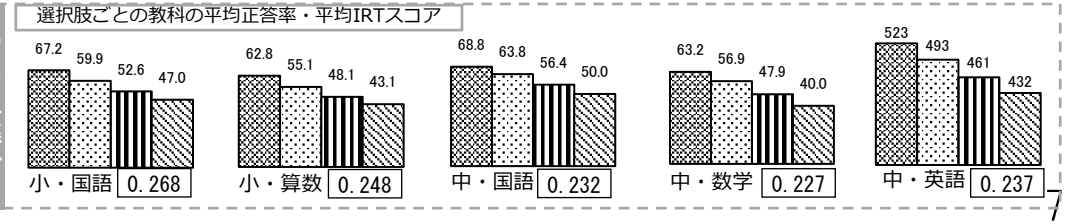
児童〔36-3〕 生徒〔36-3〕 タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。

クロス集計



児童〔36-4〕 生徒〔36-4〕 タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

クロス集計



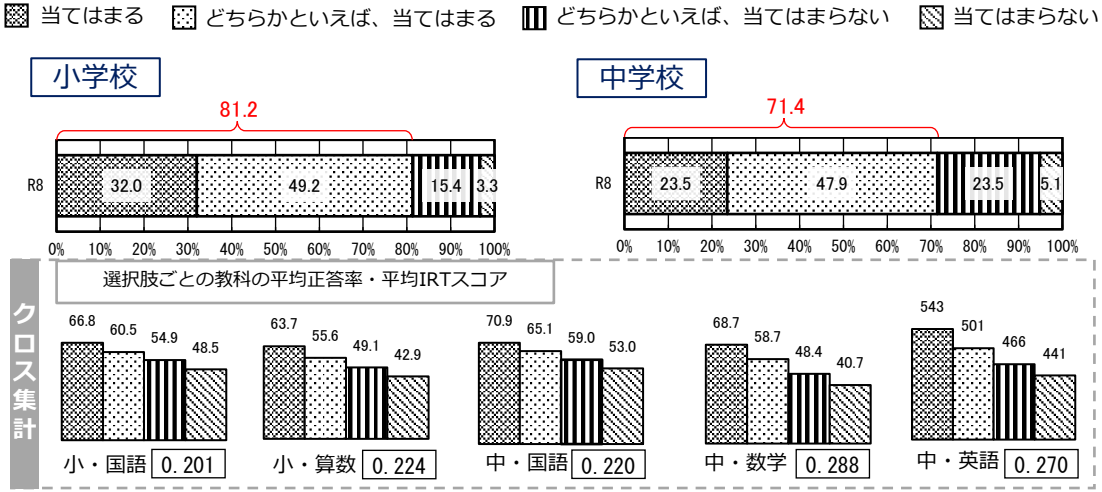
(5) 児童生徒の挑戦心や好奇心、ウェルビーイング等に関する状況

① 挑戦心や好奇心

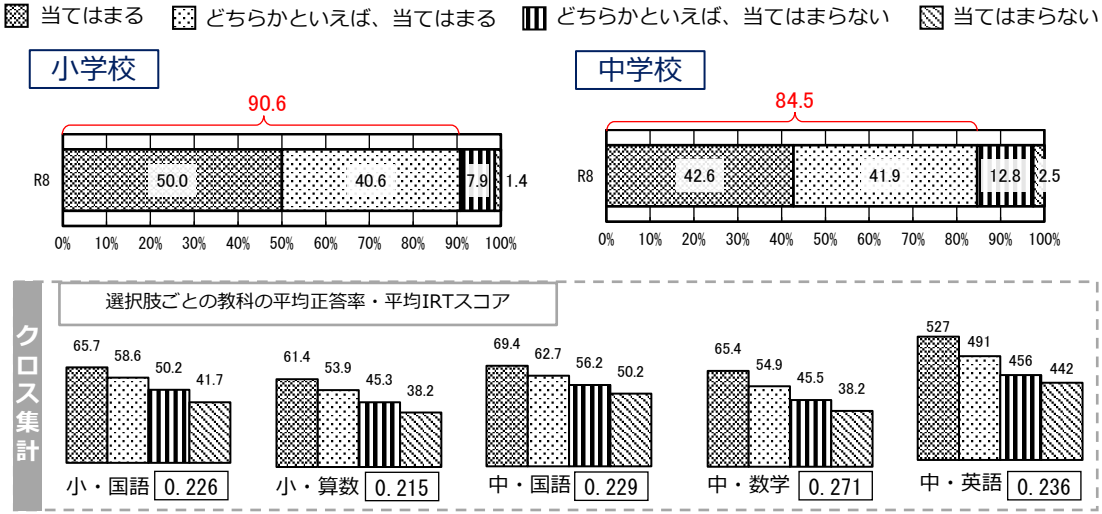
ポイント

- 【pp.77-78】約７～９割の児童生徒が、挑戦心や好奇心に関する質問に肯定的に回答している。また、肯定的に回答した児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
- 【p.79】総合的な学習の時間や学級活動における学習活動、学びの主体的な調整に関する回答と「挑戦心・好奇心」に関する回答の間には相関が見られる。

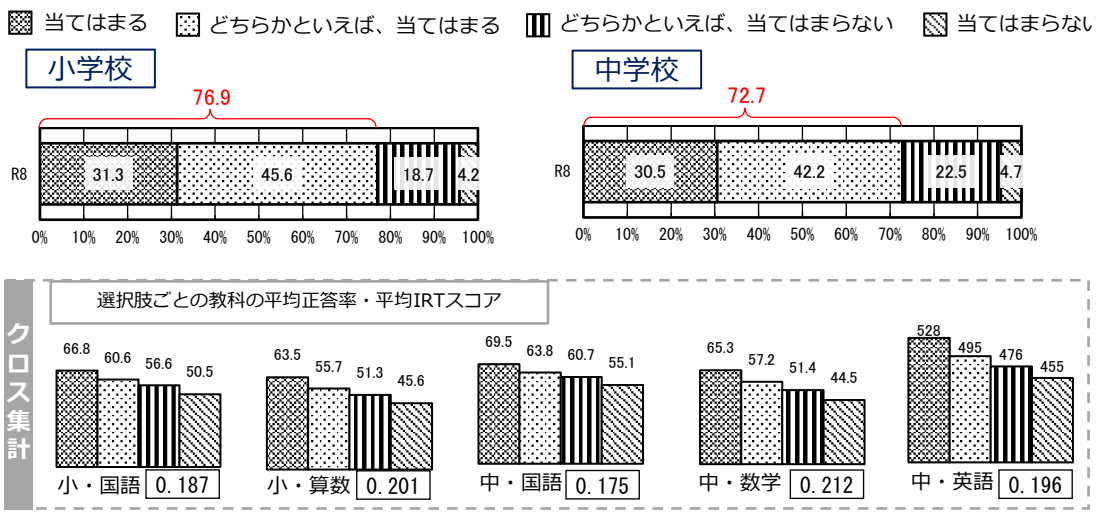
児童〔18-2〕
生徒〔18-2〕　課題が難しくなると、さらに努力していますか。【新規】



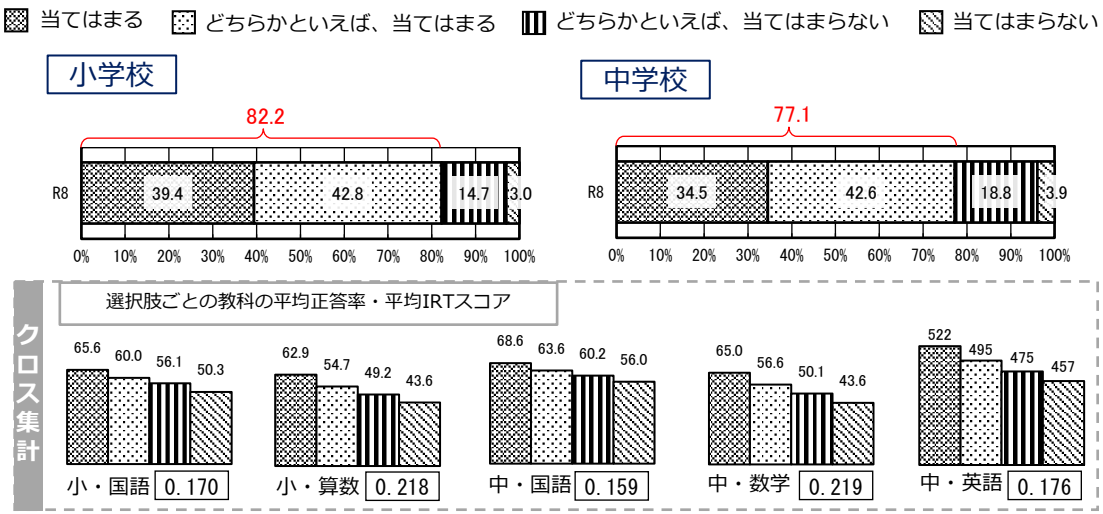
児童〔18-1〕
生徒〔18-1〕　課題を終えるまでやり通していますか。【新規】



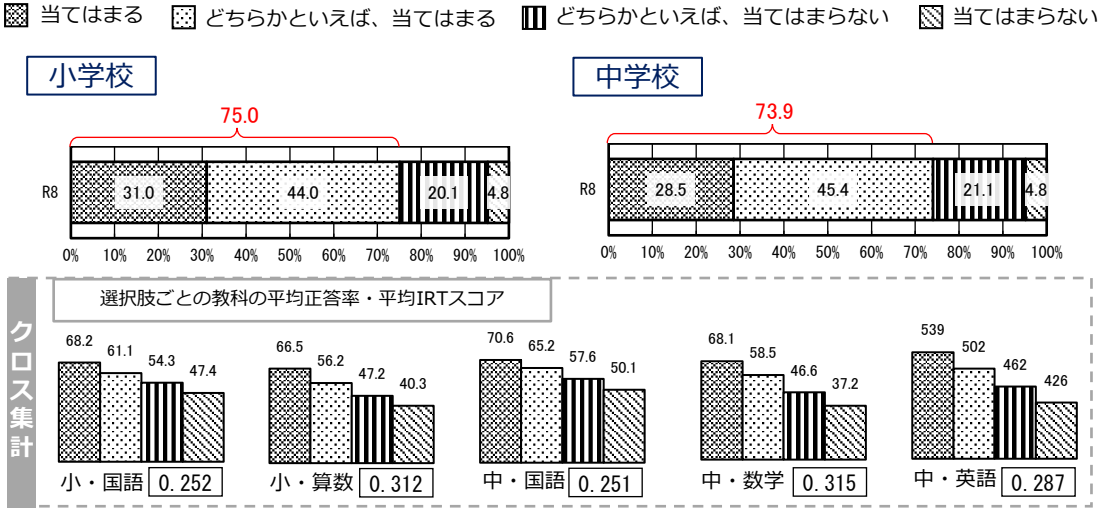
児童〔18-3〕
生徒〔18-3〕　物事をじっくり考えることは好きですか。【新規】



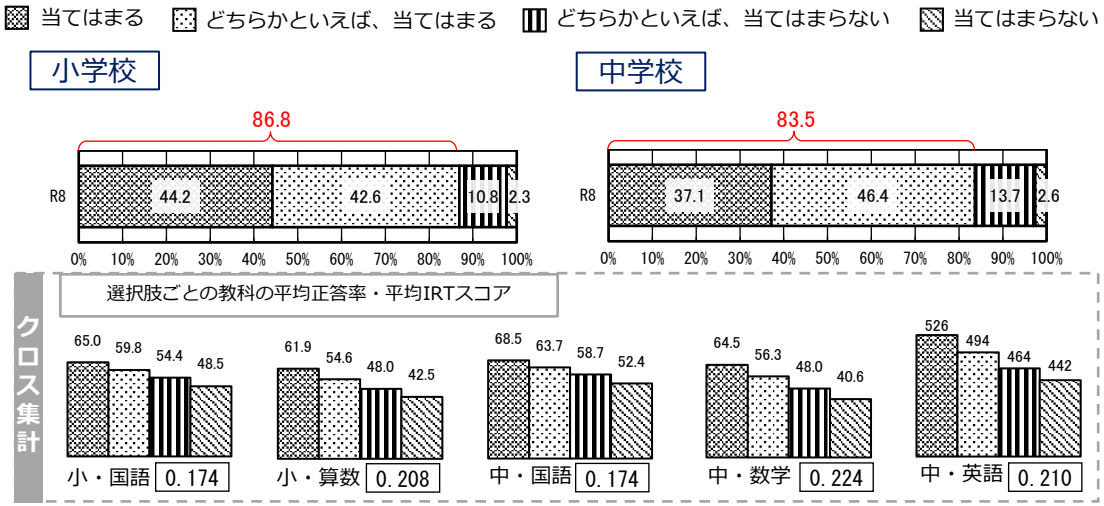
児童〔19-1〕 生徒〔19-1〕 物事の仕組みを知ることは好きですか。【新規】



児童〔19-3〕 生徒〔19-3〕 問題の解決策を見つけることは好きですか。【新規】



児童〔19-2〕 生徒〔19-2〕 新しいことを学ぶのは好きですか。【新規】



「学習活動」×「挑戦心・好奇心」

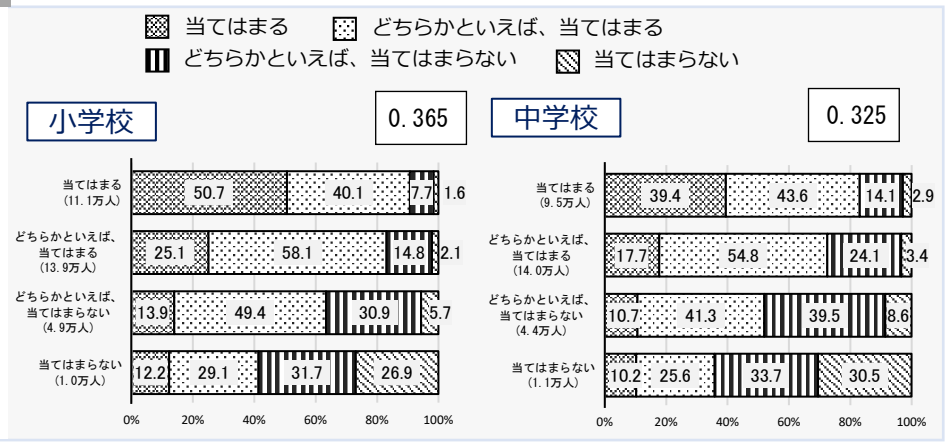
○　「総合的な学習の時間における学習活動に取り組むこと」「学級活動における話合いを生かして自分が努力すべきことを決めて取り組むこと」への回答と「挑戦心・好奇心」に関する回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［総合的な学習の時間の充実］×［挑戦心］

課題が難しくなると、さらに努力していますか。〔18－２〕

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔47〕



	課題は終えるまでやり通していますか。〔18-1〕		課題が難しくなると、さらに努力していますか。〔18-2〕		物事をじっくり考えることは好きですか。〔18-3〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔47〕	0.313	0.293	0.365	0.325	0.322	0.246
学級会〔学級活動〕における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。〔50〕	0.298	0.279	0.383	0.331	0.286	0.206

	物事の仕組みを知ることは好きですか。〔19-1〕		新しいことを学ぶのは好きですか。〔19-2〕		問題の解決策を見つけることは好きですか。〔19-3〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔47〕	0.327	0.258	0.357	0.316	0.386	0.327
学級会〔学級活動〕における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。〔50〕	0.279	0.216	0.336	0.298	0.340	0.287

「学びの主体的な調整」×「挑戦心・好奇心」

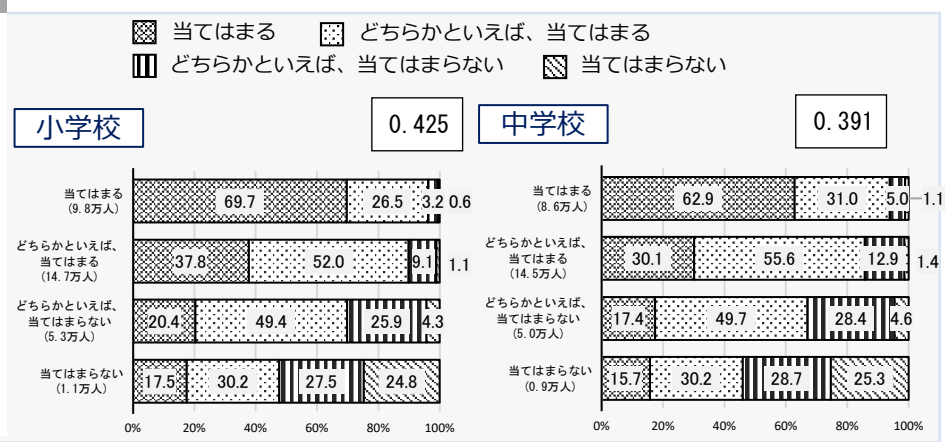
○　「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え工夫すること」「学習内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげること」への回答と「挑戦心・好奇心」に関する回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［よく分からなかった点を見直し次の学習につなげた］×［新しいことを学ぶのは好き］

新しいことを学ぶのは好きですか。〔19－２〕

学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。〔43〕



	課題は終えるまでやり通していますか。〔18-1〕		課題が難しくなると、さらに努力していますか。〔18-2〕		物事をじっくり考えることは好きですか。〔18-3〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔22〕	0.371	0.345	0.496	0.469	0.418	0.354
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。〔43〕	0.380	0.377	0.488	0.476	0.364	0.294

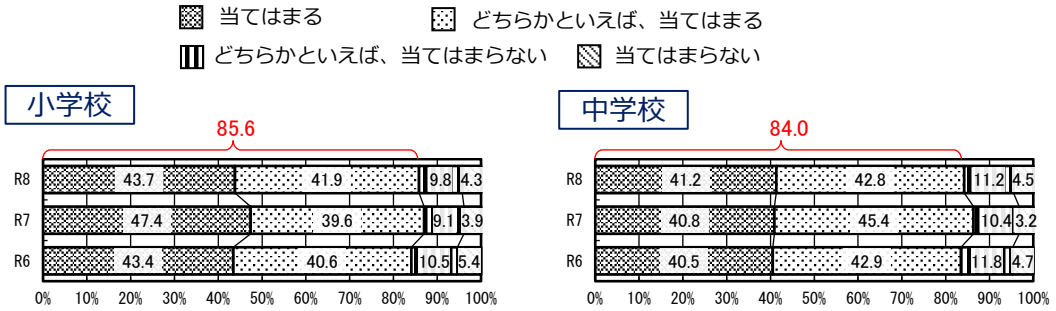
	物事の仕組みを知ることは好きですか。〔19-1〕		新しいことを学ぶのは好きですか。〔19-2〕		問題の解決策を見つけることは好きですか。〔19-3〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔22〕	0.407	0.366	0.445	0.424	0.485	0.452
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。〔43〕	0.355	0.301	0.425	0.391	0.446	0.403

② ウェルビーイング

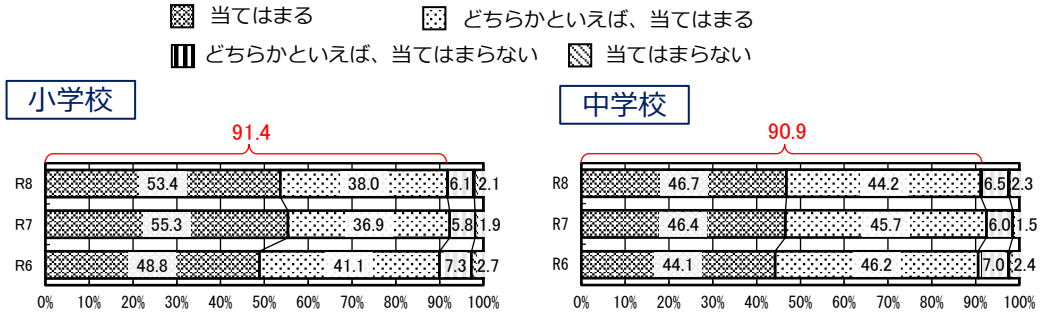
ポイント

- 【p.80】約７～９割の児童生徒が、「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれている」「将来の夢や目標を持っている」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」と思っている。
- 【p.81】学校における先生や友達とのかかわりに関する回答と「ウェルビーイング」に関する回答の間には相関が見られる。

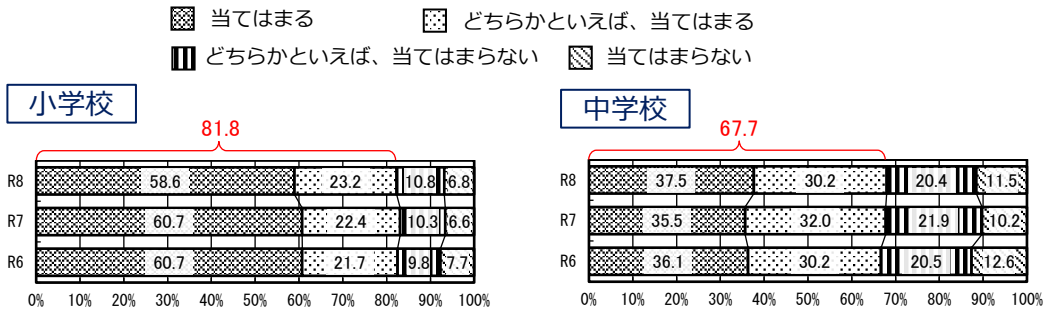
児童〔8〕生徒〔8〕 自分には、よいところがあると思いますか。



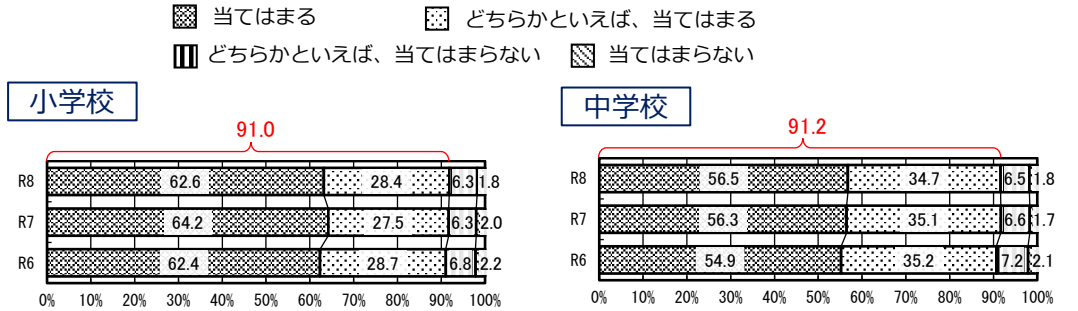
児童〔9〕生徒〔9〕 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



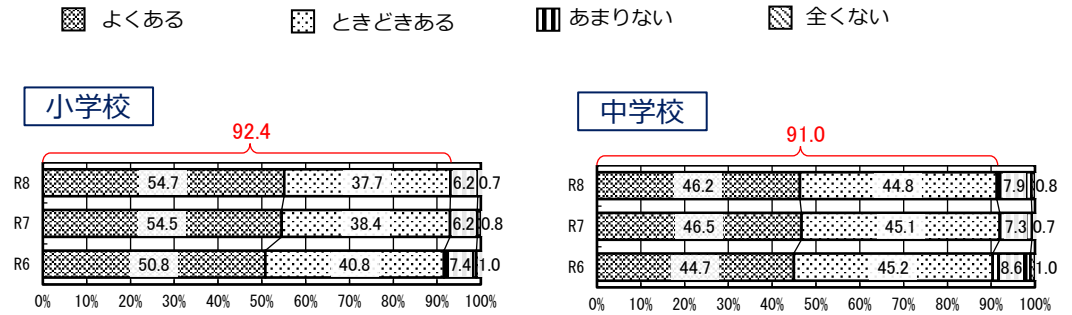
児童〔10〕生徒〔10〕 将来の夢や目標を持っていますか。



児童〔17〕生徒〔17〕 友達関係に満足していますか。



児童〔21〕生徒〔21〕 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



「学校内での人とのかかわり」×「児童生徒のウェルビーイング」

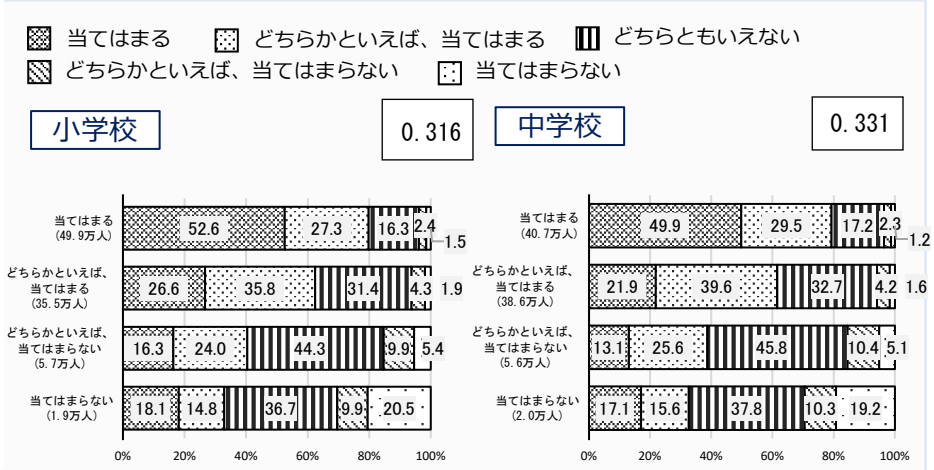
○　学校における先生や友達とのかかわりに関する回答と「ウェルビーイング」に関する回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［先生は、あなたのよいところを認めてくれる］×［心理的安全性］

あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。〔20〕

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。〔9〕

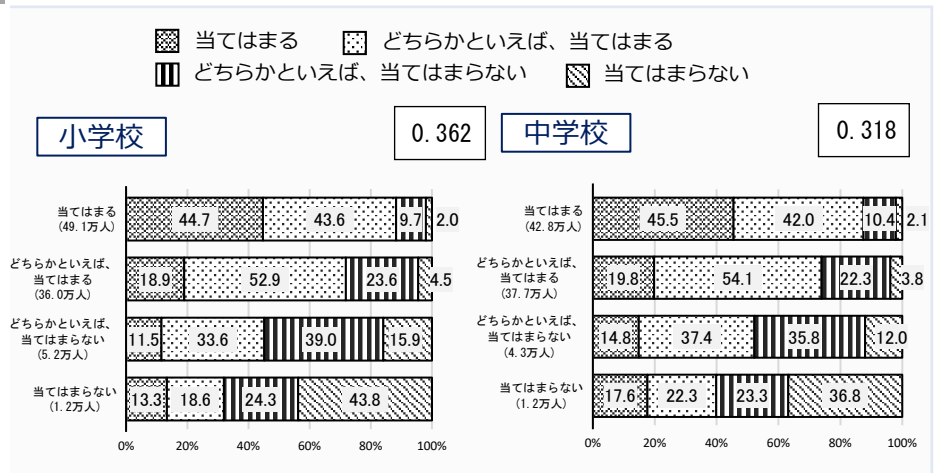


クロス集計（児童生徒）

［協働的な学び］×［自分と違う意見について考えるのは楽しい］

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔16〕

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。〔46〕



【ウェルビーイングについて、その他の項目についての相関係数】

	自分には、よいところがあると思いますか。〔8〕		人が困っているときは、進んで助けていますか。〔11〕		困りごとや不安がある時に先生が学校にいる大人にいつでも相談できますか。〔13〕		学校に行くのは楽しいと思いますか。〔15〕		自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔16〕		あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。〔20〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。〔9〕	0.407	0.468	0.253	0.268	0.327	0.399	0.337	0.355	0.278	0.255	0.316	0.331
先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。〔45〕	0.192	0.189	0.224	0.201	0.284	0.316	0.302	0.284	0.273	0.253	0.297	0.308
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。〔46〕	0.295	0.283	0.372	0.345	0.277	0.289	0.348	0.369	0.362	0.318	0.325	0.349

学校施設の充実と児童生徒・教職員のウェルビーイング向上

○　約８割の学校が、学校施設全体として、児童生徒にとって学びや生活がしやすく居心地がよいか、教職員にとって働きやすく居心地がよいか、という質問に肯定的に回答している。

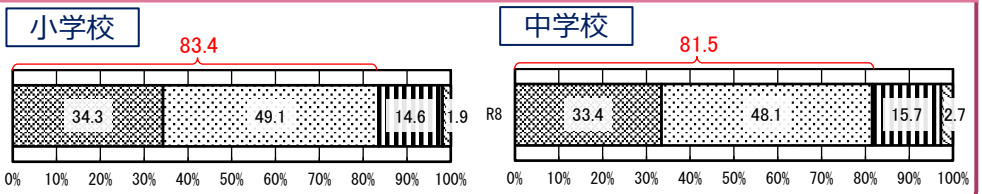
○　学校施設が児童生徒にとって居心地がよいと思っている学校ほど、児童生徒が熱意をもって勉強していると思っていると回答する割合が高い。

○　学校施設が教職員にとって居心地がよいと思っている学校ほど、学校運営上の課題対応に当たり、各教職員の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていると回答する割合が高い。学校施設の居心地のよさが、教職員の適切な役割分担や連携協働に影響を与えている可能性がある。

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない

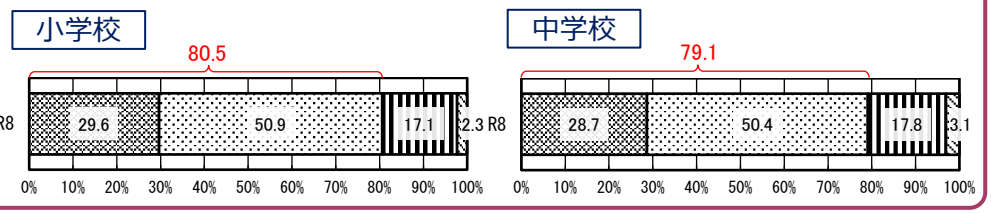
学校質問
小学校〔24〕
中学校〔24〕

児童〔生徒〕にとって、学校施設全体として、児童〔生徒〕が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか。【新規】



学校質問
小学校〔25〕
中学校〔25〕

教職員にとって、学校施設全体として、教職員が働きやすく、居心地のよい建物だと思いますか。【新規】

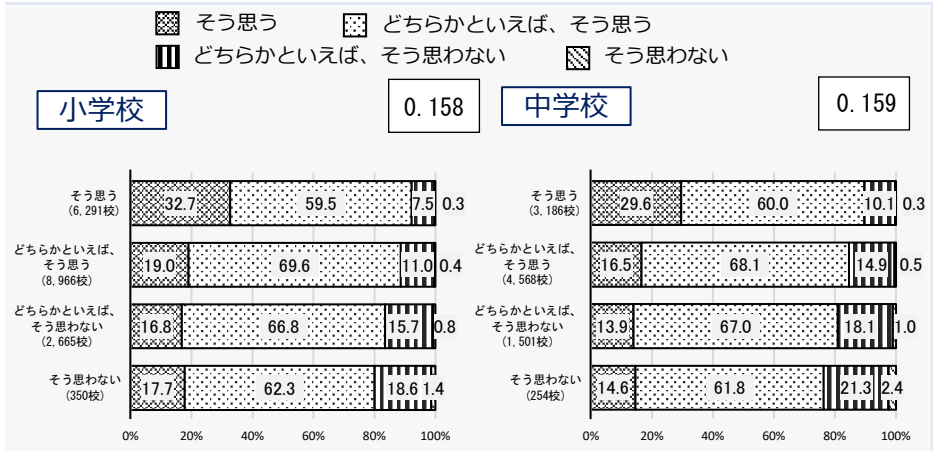


クロス集計（学校質問）

［児童生徒にとって、居心地のいい建物］×［児童〔生徒〕が熱意をもって学ぶ］

調査対象学年の児童〔生徒〕は、熱意をもって勉強していると思いますか。〔７〕

児童〔生徒〕にとって、学校施設全体として、児童生徒が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか。〔24〕

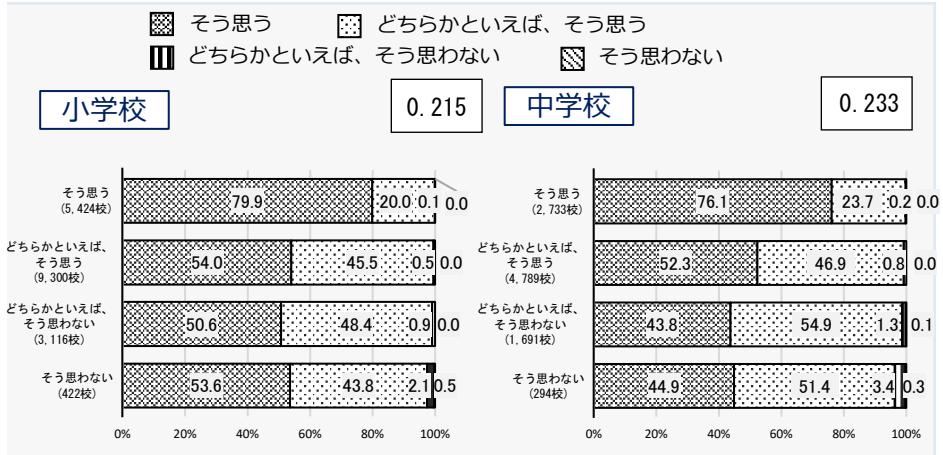


クロス集計（学校質問）

［教職員にとって、居心地のいい建物］×［教職員の専門性を生かせるような適切な役割分担や連携協働］

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか。〔19〕

教職員にとって、学校施設全体として、教職員が働きやすく、居心地のよい建物だと思いますか。〔25〕



4 文部科学省の主な取組一覧

R8

1 学習指導要領の着実な実施・改訂に向けた検討

○ **主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**
- 学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底のため、全国の都道府県等教育委員会の指導主事等を対象とした協議会を実施。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた全国の授業づくりの好事例を収集・分析し、サポートマガジン「みるみる」として公表。引き続き、事例普及に取り組む。

○ **指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）**
- 報告書（授業アイディア例を含む）を作成し、国立教育政策研究所のWebサイトに掲載（教育委 員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。
- IRTに基づく結果の活用方法について動画資料等で発信。児童生徒の理解の状況に応じた指導について、報告書で解説。
- 全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（令和８年８月19日・20日オンライン開催）。
- オンラインなども活用し、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。

○ **学習指導の充実**
- 今回明らかになった課題の解決に資するデジタル技術の活用方法について発信を実施。
- 英語において、練習量の増加や英語を学ぶ動機付けの強化等の観点から、AIを活用した英語教育の実証事業を実施。
- 児童等に、学校外での自身の興味・関心に沿って楽しく利用できる学習コンテンツ（「たのしくまなび隊」など）について周知。

○ **次期学習指導要領に向けた中央教育審議会における検討**
- 経済的に困難な背景のある子供たちを含め、子供たち一人一人が必要な資質・能力を育成できるよう、各教科等の改善や柔軟な教育課程編成の在り方について、次期学習指導要領に向けた検討を行う。

2 GIGAスクール構想の更なる取組の推進

○ **学校のICT環境整備の推進**
- 共同調達スキームの下での端末の着実な更新や、学校におけるネットワーク環境の改善等を推進、都道府県域内で共同調達・共同利用を前提とした次世代校務DX環境の整備を加速。

○ **学校のICT環境を活用した取組**
- 次期学習指導要領を見据えた情報活用能力の抜本的な向上のための教材開発。
- ICT活用のための研修コンテンツの提供やGIGA StuDX推進チームによる研修の実施。
- 学校DX戦略アドバイザーによる相談体制の構築、支援。
- 生成AIガイドラインの策定・改定、生成AIパイロット校による好事例の創出・普及。
- 紙・デジタルそれぞれの良さを取り入れた教科書の推進。

3 児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

- 道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組を推進。
- 読書の推進について、発達段階に応じた読書活動の先導的なモデル事業や、学校等における子供の読書活動を推進するための優れた取組の表彰を実施。

4 アンコンシャスバイアスの解消に向けた取組の推進

- 女子中高生と研究者等の交流機会の提供、シンポジウムや出前授業などの取組を、地域や企業等と連携して実施する大学等の支援を実施。

5 児童生徒の学習習慣・生活習慣の確立

○ **テレビゲームやスマートフォンの使用**
- 文部科学省情報モラルポータルサイトにおいて、児童生徒向けの情報モラルに関する動画教材を提供するとともに、教職員等を対象としたオンライン研修会を開催。
- こども家庭庁をはじめとした関係省庁と連携し、青少年インターネット環境整備基本計画に基づき、利用時間に関する「親子のルールづくり」の推奨など、青少年のインターネットの適切な利用に関する教育・啓発活動等を推進。

○ **学習支援**
- 教員OBや大学生などの地域住民の協力を得て行う、中学生・高校生等を対象とした放課後等の学習支援活動（地域未来塾）について補助を実施。

6 支援を必要とする児童生徒の支援策の充実

- CBTの特徴をいかし、不登校児童生徒、障害のある児童生徒、外国人児童生徒等がそれぞれの状況に応じて柔軟に調査に参加し、支援の充実につなげる形で活用。
- １人１台端末を活用した児童生徒の悩みや不安の早期発見・支援を推進するとともに、ICTを活用した学習も含め、不登校児童生徒が行った学習の成果を成績に反映することができることを法令上明確化し、制度の更なる活用促進のため、リーフレットを作成・周知。

7 教師を取り巻く環境整備

○ **指導体制の充実**
- 中学校35人学級化、小学校高学年及び中学年での教科担任制の拡充、中学校生徒指導担当教師の配置拡充、貧困等個々の学校が抱える課題への対応等、学校の指導・運営体制の充実。
- 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するため、教師人材の質の向上と入職経路の拡幅の観点から、教師の養成・採用・研修における必要な改革について、中央教育審議会の審議の中で検討。

○ **子供と向き合う時間の確保**
- 教師が教師でなければできない仕事に集中することができるよう、学校における働き方改革の更なる加速化や、教員業務支援員などの支援スタッフの配置充実。
- コミュニティ・スクールを活用した働き方改革に係る取組の充実。

○ **児童生徒・教職員のウェルビーイングの向上に資する学校施設の整備**
- 学校施設整備への支援及び情報共有プラットフォームや事例集の周知を通じた好事例の横展開等による、児童生徒や教職員が居心地の良さ等を感じられる学校施設整備の推進。

○ **校務DXの推進**
- 教職員の事務負担の軽減や効率的で柔軟な働き方の実現、データ利活用・データ連携等を通じた教育活動の高度化に向けて、次世代校務DX環境の整備への支援を加速。

8 調査結果の活用、次回以降の調査の検討

○ **教育委員会等における分析活用の推進**
- 教育委員会等が課題意識に応じて調査結果を簡便に分析・活用可能な「分析ツール」の開発・提供。都道府県・指定都市ごとに多面的に分析し結果返却。

○ **調査の充実に向けた検討**
- 令和９年度から全教科においてCBT化を着実に実施。
- 技術進展等も踏まえつつ、きめ細かな分析・返却や結果返却の更なる早期化を検討。

○ **集計結果データの貸与**
- 大学等の研究者による多様な学術研究の分析等を促進するため、個票データ等の貸与を実施。